

自己点検・評価報告書

—平成 25 年度—

文 化 学 園 大 学

文化学園大学短期大学部

『平成 25 年度自己点検・評価報告書』 作成にあたって

本学では、大学の内部質保証のための組織的な自己点検・評価活動として、年度毎に報告書を取りまとめており、本報告書が 8 回目の発行となりました。全学的な FD・SD 活動とあわせて、自己点検・評価活動をまとめた本報告書をご活用いただくことは、本学の教育の内部質保証システムの構築ならびに発展のために大いに有効であると捉えております。

本学は、平成 23 年 4 月に「文化学園大学」、「文化学園大学短期大学部」と校名を変更し、平成 24 年度からは男女共学を実施しました。これに先立って、文化女子大学短期大学部は平成 22 年度に財団法人短期大学基準協会による機関別認証評価を受審した結果、「短期大学評価基準を満たしていることから適格と認める」との評価結果をいただきました。また、文化学園大学は平成 24 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の機関別認証評価を受審した結果、「大学評価基準に適合していると認定する」との評価結果をいただきました。その折には、組織的また継続的にまとめられた本学の自己点検・評価報告書は、自己点検・評価活動の重要な資料であるとして高い評価をいただきました。

大学が学生の成長にどれほどの寄与をしているかを組織的に検証し、PDCA サイクルに沿って教育の質の向上・改善をしていくために、今後も全学的に継続して自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。

本報告書作成にあたり、ご理解、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

平成 26 年 7 月 1 日

全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度 (2001)』
2. 『文化女子大学自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 18 年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 19 年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 20 年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 21 年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部自己点検・評価報告書 平成 22 年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 22 年度—』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 23 年度—』
10. 『文化学園大学自己点検評価書 平成 24 年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 24 年度—』

目 次

『平成 25 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

文化学園大学 文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会	6
全学自己点検・評価委員会	8
全学 FD 委員会	10

協議機関

服装学部協議会	14
造形学部協議会	16
学部共通科目協議会	18
現代文化学部協議会	20
文化学園大学短期大学部協議会	22

審議・決定機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	26
国際文化研究科委員会	28
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	30
文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録	31
現代文化学部教授会開催記録	31
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	32

審議機関

常置委員会	
教務委員会	34
学生支援委員会	36
研究委員会	38
入試対策委員会	40
就職委員会	42
特別委員会	
研究倫理委員会	44
研究費不正使用防止委員会	45
ハラスメント防止委員会	46
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	48
建築・インテリア系資格専門委員会	50
文化・語学研修専門委員会	52
紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」	54
紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」	56
日本語教員養成課程専門委員会	58
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	59
学芸員課程専門委員会	60
司書課程専門委員会	62
留学制度検討委員会	63

附属機関

文化学園大学図書館	66
文化学園服飾博物館	68
文化学園ファッションリソースセンター	70
文化学園国際交流センター	71
文化学園知財センター	72

共同研究拠点

文化ファッション研究機構	76
--------------	----

附属研究所

文化・衣環境学研究所	80
文化・住環境学研究所	82

事務局

研究協力室	86
全学 SD 委員会	87

学園本部

学園総務本部	90
学園管理本部施設部	91
学園経理本部	92
IT 委員会(情報システム室)	93

附：委員会委員一覧表	附 2
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 4
学部・学科・コース編成	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協 議 ・ 審 議 機 関

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 文化学園大学創立50周年(平成26年)を控え、記念行事の企画とともに、本学のミッションを再点検することとする。【大】 2. 共学化 2 年目における学生の学修状況の把握に努め、引き続き問題点の抽出と対応策の検討を行う。【共】 3. 教員による高校訪問の報告書をもとに、訪問の質的充実と、受験生の増加を目指す。【共】 4. シラバスの点検による各学部のカリキュラムの検証を進め、カリキュラムポリシーに即したカリキュラム再編に資するものとする。【共】 5. 各学部学科のカリキュラム改編のうち、新設コースの認知度を高めるべく、学内外への広報活動に努める。【共】 6. 休・退学者の減少に向けた学修支援等のあり方をさらに検討する。【共】 7. 寄付金募集の活動をさらに強化し、その使途について具体的に検討することとする。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 文化学園大学創立50周年を記念し、従来行ってきた行事（服装学部服装造形学科ファッションショー、けやき祭、造形学部卒業研究展等）で「創立 50 周年記念行事」を冠とした取り組みを行う。また、研究所のシンポジウム、施設公開等も行う。【大】 2. 平成25年 9 月に全学 FD 委員会主導のもと教職員全員参加で行った「秋の分科会」では、「男女共学化の現状と今後の課題」として討議を行った。授業等における取り組みの報告とともに、新たな課題等も協議され、それらは分科会報告書として全員に配信・配布された。【共】 3. 平成25年度は129人の教員が 345 校を訪問した。結果として、必ずしも平成26年度へ向けての受験生の増加にはつながらなかったが、今後も報告書をもとに質的な充実を目指す。【共】 4. 各研究科、各学部、学部共通科目で主任教授等を中心とした「シラバス検討委員会」を構成し、平成 26 年度シラバス作成へ向けて全ての科目のシラバスを見直した。結果、授業内容の重複等が明らかになり、カリキュラムポリシーに即した改善を行ったが、今後も同検討委員会で継続して検討する。【共】 5. 高校訪問や本学ホームページ、広報誌等を通じて周知に努めた。平成27年度に向けても周知に努める。【共】 6. 大学から短期大学部への転学を柔軟に対応することとした。【共】 7. 「文化学園大学海外提携校への留学奨励金規程」を作成、施行した。同規程の奨励金の原資は寄付金によるものである。【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 平成27年度から新都心キャンパスへ現代文化学部を移転する。そのための取り組み（教室、実習室編成・カリキュラム編成・教職員人事編成等）を洗い出し、平成26年度中の解決を目指す。あわせて平成27年度以降の改組転換も視野に入れて検討する。【大】 2. 現代文化学部の移転に合わせて学生確保の充実を図るべく、学生募集活動の見直しを行う。 【共】 3. 共学化の周知に努め、より優秀な学生の確保のために、教員による高校訪問の強化等、情報発信をさらに複線化する。【共】 4. 武漢紡織大学からの学生の受入れを開始するとともに、浙江理工大学とのダブルディグリー、北京服装学院からの編入学生受入れ等を推進する。【大】 5. シラバスの検討をさらに進め、教育内容の重複を是正し、カリキュラムの見直しに資することとする。【共】 6. 大学創立50周年記念行事として各種イベントを位置付けるとともに、繊維学会記念行事でのファッションショー、服飾博物館の特別展示等も開催する。【共】 7. 特待生制度を平成27年度生から全学的に採用することとする。【共】

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 6 月 4 日	1. 文化学園大学創立 50 周年記念行事（予定）について 2. 2014 IFFTI 国際会議について 3. 留学生入試について 4. 現代文化学部学費改定、特待生制度、社会人入試、長期履修等について 5. その他 コンテスト、産学連携等について
平成25年 10 月 1 日	1. 私立大学の現状と課題について 2. 2014 IFFTI 国際会議について 3. 平成 25 年度卒業式及び平成 26 年度入学式について 4. 規程について 5. 大学ポートレートについて 6. 学部（特に服装学部）退学者の短大への進学（受入れ）について 7. 服装学部服装社会学科入学定員の変更について 8. シラバスについて 9. その他 ファッションビジネス（FB）学会全国大会について
平成26年 1 月 21 日	1. 平成 26 年度入試状況について 2. 2014 IFFTI 国際会議について 3. 海外提携校について (武漢紡織大学・マンチェスターメトロポリタン大学 等) 4. 文化学園大学自己点検・評価規程改定について
平成26年 3 月 20 日	1. 現代文化学部の移転について 2. 文化学園大学特待生制度規程（改定案）について 3. 大学の教員等の任期に関する法律の一部を改正する法律の公布について（通知） 4. 平成 26 年度入試状況について 5. 学生募集の専門家によるサポート導入について

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成24年度』のまとめ・公表【共】 2. 認証評価結果の検討と対応【大】 3. 連携した自己点検・評価活動の推進【共】 4. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成25年度』の作成【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成24年度』のまとめ・公表 各審議機関の協力により編集作業は順調であった。平成 25 年 7 月 1 日付で発行し、学内及び関連部署への配付、文化学園大学ホームページでの公表を実施した。また、平成25年 9 月の教授会にて配布の報告をし、関係部署における有効活用を呼びかけた。【共】 2. 認証評価結果の検討と対応 文化学園大学は『平成24年度「大学機関別認証評価」第 2 回評価結果報告書(p. 94～)』（財団法人 日本高等教育評価機構）においては、適合しているとの認定を得ているが、卒業生からの情報収集については必ずしも十分ではない。また、文化学園大学短期大学部は『平成22年度評価結果』（財団法人短期大学基準協会）においては、図書館の利用向上の努力が望ましいとの指摘を受けている。この点については、利用の増加を図る対応も必要であろう。 次回の認証評価は、短期大学部が平成29年度までに、学部が平成31年度までに受審しなければならないが、日本高等教育評価機構で学部、短大を一緒に受審するためには、平成28年度に体制を整えなければならない。その場合、現在の評価基準で対応できる。学部、短大を一緒に受審する場合、内容をすり合わせて別々に作成し、冊子は 2 冊一緒に提出することになる。実地調査も別々に 3 日ずつ、計 6 日となる。短期大学部独自の特色を打ち出していかなければならないが、そのためには平成26年度から準備を始める必要がある。【大】 3. 連携した自己点検・評価活動の推進 『大学における教育内容等の改革状況調査について(一部抜粋)』にて本学の回答票を確認した結果、「自己点検・評価」については十分に対応できているが、「学生による授業評価等の実施状況」については、実施していないことが課題であることを確認した。全学 FD 委員会と連携をとりながら、本委員会も協力体制をとることを検討すべきであろう。【共】 4. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成25年度』の作成 執筆依頼先、様式及び執筆要領、スケジュール等を検討した後、締め切りを平成26年 4 月 1 日とし、1 月の教授会にて執筆を依頼した。執筆に際しては、『平成24年度「大学機関別認証評価」第 2 回評価結果報告書(p. 94～)』ならびに『平成 22 年度評価結果』（短期大学部）での指摘事項を鑑みて点検・評価をするように平成26年 1 月の教授会で依頼した。認証評価結果報告書と自己点検・評価報告書との整合性について全学的意識を共有できたと考える。【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成25年度』のまとめ・公表【共】 2. 次回の認証評価へ対応するための情報収集と整理【共】 3. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 26 年度』の作成【共】

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 5 月 7 日	1. 新委員の紹介 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』の作成について(原稿提出状況の報告、スケジュール、発行日の確認)
平成25年10月 29 日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』について(発行の報告) 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 25 年度』の作成について(原稿依頼先と執筆に関するスケジュール確認) 3. 文化学園大学自己点検・評価規程について 4. 第 57 回公開研究会「認証評価の課題とこれからの方向性(概要報告)」について
平成25年 12 月 3 日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 25 年度』の作成について(原稿依頼先、執筆要領の最終確認) 2. 本学の自己点検・評価活動の今後の課題について
平成26年 2 月 25 日	1. 本委員会の『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 25 年度』の本委員会の記述内容についての検討

■検討組織名：全学FD委員会

報告者：星野 茂樹

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」及び「秋の分科会」の実施 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」等の企画 3. 『学生によるカリキュラム・授業改善のアンケート』の今後の企画、設計、実施方法と結果活用についての企画検討 4. 学生支援委員会をはじめ、各委員会との連携 5. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」及び「秋の分科会」の実施 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」は非常勤講師の参加も得て、4 月 2 日に実施し、当研修会に於ける分科会（テーマ：今後の学生の意識レベルの向上、常勤教職員のみ）の報告書を 7 月に全教職員へ配布した。またその内容を基に全教職員による「秋の分科会」（テーマ：授業改善案についての情報交換等）を企画し 9 月 19 日に実施。同報告書を 12 月に配布した。 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」等の企画 平成 26 年度の企画については、開催方針と分科会のテーマ等を検討、平成 25 年度と同様に 3 部構成とし、①各学部教育方針の発表、②学生の時代的変化等の問題に対応すべく、元附属杉並高校・中学校校長、本学野原明名誉教授による講演を計画した。③分科会に於いては、野原明名誉教授による講演に基づき、昨今の学生世代の理解と対応について情報の共有化と対策案の抽出を狙うものとし、教職員の総合的な教育力の強化につながる企画とした。①には非常勤講師も参加をお願いする。 3. 『学生によるカリキュラム・授業改善のアンケート』の今後の企画、設計、実施方法と結果活用についての企画検討 アンケートの今後の企画、設計、実施方法と結果活用について検討した結果、平成 26 年度後半での実施を決定。同時に毎年行う等、回数を増やし、規模をコンパクト化。学生への負担等を軽減する企画方針を決定した。 4. 学生支援委員会をはじめ、各委員会との連携 「学生支援委員会」、「全学自己点検・評価委員会」との協力と連携については、情報の交換及び共有等を行ってきたが、平成 25 年度は具体的な成果はなかった。 5. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集 平成 25 年度第 19 回 FD フォーラム（於：京都 大学コンソーシアム京都主催）への参加者を増やす等の情報収集の強化、及び委員会に於ける情報共有化と他大学発行の FD 関連レポートの収集等を行った。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 委員会メンバーの交代による新チームの結成、方針・情報の共有 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」及び「秋の分科会」の実施 3. 平成 27 年度「全学 FD・SD 研修会」等の企画 4. 学生によるカリキュラム・授業改善のアンケートの平成 26 年度の計画と設計及び実施 5. 具体的提案の選択と具体的行動試案の作成 6. 学生支援委員会をはじめ、各委員会との連携の強化 【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 4 日	1. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」の反省 2. 平成 25 年度全学 FD・SD「秋の分科会」のグループ分けとテーマについて 3. 平成 24 年度全学 FD・SD「秋の分科会」における要望について検討
平成25年 5 月 24 日	1. 文部科学省調査の「教授法が大学を変える」というテーマでの授業紹介について検討 2. 学力の高い学生をどのように伸ばすかについて意見交換
平成 25 年 7 月 2 日	1. 平成 25 年度全学 FD・SD「秋の分科会」のグループ分けとテーマについて 2. 文部科学省調査の「教授法が大学を変える」というテーマでの授業紹介について検討 3. 教授法改善のための一提案として、授業見学実施について検討
平成 25 年 8 月 5 日	1. 平成 25 年度全学 FD・SD「秋の分科会」の実施計画の確認 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」のテーマについて検討
平成25年 9 月 19 日	1. 平成 25 年度全学 FD・SD「秋の分科会」の実施計画の確認 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」のテーマについて検討
平成25年10月 22 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」のテーマについて検討 2. 平成 25 年度全学 FD・SD「秋の分科会」の反省
平成25年11月 26 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」の講演、グループ分け、テーマについて決定 2. 今後の全学 FD 委員会の議題・動きについて意見交換
平成25年12月 17 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」分科会のテーマについて検討 2. 今後の全学 FD 委員会の議題・動きについて意見交換 3. 第 19 回京都 FD フォーラム参加について
平成26年 1 月 14 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」分科会のテーマについて検討 2. 平成 26 年度学生による授業・カリキュラム改善アンケートの実施について検討 3. 実施できる FD の課題について意見交換 4. 第 19 回京都 FD フォーラム参加について
平成26年 2 月 25 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」の実施内容について最終確認 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」分科会のテーマについて決定 3. 第 19 回京都 FD フォーラムの参加報告
平成26年 3 月 14 日	1. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」の準備について最終確認 2. 今後の FD の取組について意見交換

協 議 機 関

■検討組織名：服装学部協議会

報告者：池田 和子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. アパレル産業界の視点に立った服装学への見直しを行い、コース及びカリキュラム全体の再構築に向けた検討を開始する。【大】 2. 学部キャリアデザイン教育については、継続して実施するとともに、その大系化を具体的に計画する。【大】 3. 環境教育、地域連携、企業連携を重視し、積極的に関連科目の推進充実を図る。【共】 4. 「2014 IFFTI(国際ファッション工科大学連盟)国際会議」の本学での開催にあたり、服装学部による卒業研究展示等を実施する。【共】 5. USR(University Social Responsibility)推進室の 5 つの活動(①企業活動②地域や社会③卒業生④在校生⑤保護者)の更なる活性化及び充実に取り組む。【大】 6. 平成27年度実施の「武漢紡織大学からの編入学」と「グローバルファッションマネジメントコース」を円滑に行う準備を開始する。【大】 7. 平成24年度導入した「ホールガーメント機」と「大型プリンター1 台」の積極的活用と、指導教員の養成を行い、テキスタイル教育環境整備を進める。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. アパレル産業界の視点に立った服装学への見直しについては、今年度は1 年次のファッション造形学実習関連科目において教科内容の大幅変更を実施し、具体的成果を得た。【共】 2. キャリアデザイン教育は従来取り組まれていない2 年次について調査を開始した。【共】 3. 環境教育・地域連携教育は昨年同様継続実施すると共に、商業施設として高い評価の「LAZONA 川崎プロジェクト」との企業連携を行い高い評価を得た。【共】 4. 「2014 IFFTI 国際会議」の本学開催時に、卒業研究・修士論文・ショー作品等の展示を開催すると共に、本学学生参加の「第17回全国さものデザインコンクール」の東京発表会展示も合わせて開催し、多数の来場者を得た。【共】 5. USR 推進室の 5 つの活動は、「エコプロダクト展」等の継続参加の他に、今年度は「卒業生情報整備」と「ファッション&サステナビリティ」の翻訳出版に重点的に取り組んだ。【大】 6. 中国「武漢紡織大学」からの編入生の受け入れは中国側の都合で 1 年繰り延べとなり、平成28年度実施に向けての提携協定書の策定を行うと共に、実施に向けて教員・学生相互の交流を活発に行った。また、平成26年度開始の「グローバルファッションマネジメントコース」に先行して海外インターンシップを香港で実施し、次年度の確認ができた。【大】 7. テキスタイル教育環境の整備については、平成24年度に引き続き平成25年度も私立大学教育研究活性化設備整備費補助金の採択により、1 クラス 40 人体制による正規授業が可能な台数が一気に整備された事により、若手教員養成セミナーも本学で実施することが出来た。【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 文化学園大学創立50周年記念として、「第29回服装学部服装造形学科ファッションショー」と「文化祭」に取り組む。 2. 平成 26 年度入学者が大幅に減少することを受けて、全学部としての見直しに取り組み、原因究明の調査を行う。【大】 3. アパレル産業界の視点にたった服装学への見直しから、コース及びカリキュラム全体の再構築に向けた検討は継続強化する。 4. キャリアデザイン教育については、継続して実施するとともに、学生の就職意識の改善を目指し更なる改善強化を図る。【大】 5. USR 推進室の 5 つの活動 (①企業活動②地域や社会③卒業生④在校生⑤保護者) の更なる活性化及び充実に取り組む。【大】 6. 平成 28 年度実施の「武漢紡織大学編入学」を円滑に行う準備を行う。【大】 7. 学科間及びコース間の教室スペースの見直しをし、教育機能の更なる円滑を促進する。【大】 8. 平成25年度導入した「ホールガーメント機」と「SDS-ONE」の積極的に活用し、産業界の要請の高い「ニット分野」の教育環境整備の推進を図る。【共】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	1. 新年度の確認事項（入学生数、進学フェスタ日程、バザー委員会スタッフ、服装造形学科のファッションショー協力依頼、共同研究課題募集） 2. 卒業研究・学長賞展示の期間と場所についての審議 3. 中国 武漢紡織大学への教員派遣についてと海外インターンシップ検討委員会の出張報告 4. 日本繊維製品消費科学会年次大会開催案内
平成25年 4 月 30 日	1. コース別「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」の計画立案 2. 文化学園大学杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」の実施計画立案 3. 服装造形学科ファッションショー終了報告 4. 学外交流協力要請（2014 IFFTI 国際会議、LAZONA 川崎プロジェクト、パールデザインコンテスト、全国きものデザインコンテスト等） 5. 卒業研究学長賞展示報告
平成25年 6 月 11 日	1. 進学フェスタ報告・公開授業の予定確認 2. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」報告 3. カリキュラム変更案作成依頼（平成25年11月12日教授会承認） 4. 学内研究発表会の概要決定 5. 「グローバル人材育成プロジェクト」事業報告書完成
平成 25 年 7 月 9 日	1. 進学フェスタ・サマーオープンカレッジ終了報告 2. カリキュラム変更案審議 3. USR 推進室活動報告 4. LAZONA 川崎プロジェクト中間報告 5. 海外インターンシップ検討委員会中間報告 6. 学内研究発表会登録要請 7. 研究戦略検討会発足
平成 25 年 9 月 5 日	1. 進学フェスタ・A01 期入試エントリー状況報告 2. 学外交流（LAZONA 川崎プロジェクト終了報告、クールビズデザインコンテスト説明会案内、グランマの Kawaii・パールデザインコンテスト・全国きものデザインコンクールは中間報告）
平成25年 10 月 2 日	1. A01 期入試報告 2. 学内研究発表会終了報告 3. 文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」 グローバルファッション人材育成プロジェクト「グローバルファッションリーダーの育成」要請ゼミ開講報告 4. 学内研究発表会進行報告 5. USR 推進室の活動報告（文化祭期間中の活動要請・「ファッション&サステイナビリティ」翻訳等） 6. FIE 開催案内
平成25年11月 12 日	1. 短期大学部専攻科のカリキュラム変更案審議（平成26年 2 月20日教授会承認） 2. 平成26年度授業日程審議 3. 文化祭報告 入学定員数変更の経過報告 4. 入試状況報告 入学事前教育プログラムの実施 5. 武漢紡織大学と交流報告
平成25年12月 10 日	1. 短大専攻科カリキュラム変更案審議 2. 平成26年度入学者数現状報告 3. 2014 IFFTI 国際会議での服装学部展示の中間報告 4. 平成25年度 3 年次コース決定調整中の報告 5. USR 推進室活動報告（服装学部 3 年生「社会的基礎力チェック結果報告書」配信） 6. 韓国 啓明大学から 4 カ国合同ショー参加要請 7. 服装学部シラバス調整に関するワーキンググループメンバー選出 8. 平成25年度私立大学教育研究活性化設備整備事業の追加募集に申請
平成 26 年 1 月 7 日	1. 服装学部シラバス調整に関する WG にチェックリストの作成依頼 2. A0 入試 2 期の合格発表 3. 卒業研究発表会日程発表及び学長賞展示担当者決定 4. USR 推進室からエコプロダクト展参加と小学校 2 校の家庭科支援終了報告 5. 新宿東口「献血ルーム」に学生作品展示担当決定
平成26年 2 月 20 日	1. 服装造形学科を 8 クラスから 7 クラス編成に変更 2. 卒業論文学長賞受賞者と展示担当教員者の決定報告 3. 平成 25 年度「キャリアデザイン（展開編）ーコースセミナー」の予算審議・承認 4. 平成25年度私立大学教育研究活性化設備整備事業の追加募集が採択 5. 学外連携として、「LAZONA 川崎プロジェクト」報告書作成報告 6. 武漢紡織大学編入生受け入れ合作プログラム申請書作成 7. 海外インターンシップ検討委員会出張計画報告 8. 文部科学省委託事業成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業成果報告
平成 26 年 3 月 5 日	1. 平成26年度入学手続き者数現状報告 2. 平成26年度事業予算確定報告 3. 平成25年度「キャリアデザイン展開編ーコースセミナー」の報告書と平成26年度の計画書提出 4. 平成23～25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告会終了報告

■検討組織名：造形学部協議会

報告者：堀尾 眞紀子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 造形学部にて平成25年度より発足する「映像クリエイションコース」、「住生活デザインコース」各コースの科目のシラバス点検と体系化を図ることで時代への対応と更なる教育内容の充実を目指し、造形学部活性化の牽引力とする。【大】 2. 造形学部の学科・コース・学年を超えた連携及び教育内容の活性化を推進するためにプレゼンフォーラムを実施する。平成24年度に続き明治大学主催「e プレゼン・コンテスト」に参画、他大学との交流をはかり成果を「造形学部年間教育活動報告集」で学内外に広く公表する。【大】 3. 造形学部の特色を活かした産学連携・地域連携型教育をさらに推進する。【共】 4. 「造形学部ホームページ」の更なる内容充実と改善を推進し、学生の実制作プロセス公表を通して社会、企業、卒業生への情報発信とし本学部教育内容の学内外への広報につなげる。【大】 5. 「キャリア形成教育科目」5教科の更なる体系化をはかり「キャリア支援講座」並びに「キャリアアップ資格特別講座」を実施、職業人意識、資格取得の意義を学ぶ機会とする。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 生活造形学科の「映像クリエイションコース」発足に際し、1 年次から完成年度までの体系的カリキュラム編成とシラバス作成、常勤教員 1 名の確保、演習室の確保を行った。建築・インテリア学科「住生活デザインコース」発足に関しては学科全体の見直しと、更なる教育内容の充実を目指し研究室所属教員の大幅な編成替えを検討し、平成26年度から実施する。【大】 2. プレゼンフォーラムは平成25年度のテーマとして「青空ランチ」、「風」とし多くの応募があった。最優秀者 2 名は明治大学主催の「e プレゼン・コンテスト」、韓国でのワークショップ参加を通し意識向上がみられた。その成果を「造形学部年間教育活動報告集」で、学内外に広く公表した。【大】 3. 平成25年度は連携を更に広げ、地域連携は①多摩産材活用による家具製作、②中井・落合「染の小道」プロジェクト、③須坂市古民家プロジェクト、④新宿百人町壁画プロジェクトの 4 件、産学連携は、①小田急フリーペーパー、②小田急エキテリア、③㈱ヤマヒサ「東京職人マップ」、④東京ネクタイ協同組合「ネクタイコラボ」⑤㈱ロッテ「ロッテ CM」提案の 5 件を実施した。【共】 4. 「造形学部ホームページ」については、学生の実制作プロセス公表を主軸とし、昨年からパソコン上だけでなくスマートフォン対応としたことから在学生の活用推進、卒業生との連携、社会・企業の情報発信の向上につながった。【大】 5. 「キャリア形成教育科目」についてはシラバスの見直しを行い、就職相談室、外部の講師などの専門家との連携のもとに具体的な体系化をはかった。【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. デザイン・造形学科は、平成26年度よりの名称変更、映像クリエイションコースの基礎実習始動を機に、また建築・インテリア学科はコース再編成を受け、デザイン、造形、建築インテリアの社会的役割の視点に立った造形学部の見直しを行い、教育内容の充実、入学者層の拡充につなげる。 2. 充実した大学生活支援、また休学・退学者対策として少人数制ゼミ、個別指導、メンタルケアを推進し、プレゼンフォーラム、地域・産学連携イベント等への参加への積極的呼びかけをする。 3. 従来の卒業研究展の在り方を見直し、各コースでの学外展も視野に入れ、具体的な実施方法を検討し、広く企業、マスコミ、学校関係への積極アピールの機会とする。 4. 文化学園杉並高校との高大連携は現在インテリア系科目を設置しているが、今後さらに、デザイン・造形学科の映像やアニメ、デザイン系科目の連携を検討し本学部への進学につなげる努力をする。 5. 作品投稿サイトである造形学部 HP「TRUNK」を通して、学生の実制作活動の対外的発信の支援、アイデアとスキルをつなげる場としての機能を推進する。そのために昨年度に行ったサイト改修を 十分活かせる積極的運用を行う。さらに大学創立 50 周年を記念する学外イベントを検討する。 6. 横軸連携型教育の軸としてのプレゼンフォーラムを実施し、明治大学主催の「e プレゼン・コンテスト」、韓国でのワークショップに参加する。教育成果の点検と改善へ向けての努力をする。【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	1. 平成 25 年度入学試験、造形学部結果報告と今後の方向について審議 2. 造形学部共通予算に基づく平成 25 年度の活動企画についての報告 3. キャリアデザイン導入編、展開編の企画依頼 4. 「BZ」造形学部年間活動報告集の完成と配布先について報告
平成25年 4 月 30 日	1. 平成 25 年度造形学部共通経費、研究室経費について確認 2. キャリアデザイン（展開編）－コースセミナーについての日程について確認 3. インターンシップ報告会の内容変更について報告 4. 教員による高校訪問について確認
平成25年 6 月 11 日	1. 学内研究発表会についての報告と依頼 2. 台湾での卒業記念研究作品展示「YODEX」について報告 3. 造形学部プレゼンフォーラムと、明治大学主催「eプレゼン・コンテスト」について報告 4. 日本私立大学協会ロゴマーク公募について報告
平成25年 7 月 26 日	1. 造形学部共通制作室の使用方法について報告 2. 各研究室管理の教室・備品利用方法について報告 3. 国際ファッション工科大学連盟（IFFTI）活動協力のポリモーダ大学への作品応募状況について報告 4. 造形学部ギャラリー（A150）の内容について報告
平成 25 年 9 月 5 日	1. A01 期の事前打ち合わせについて確認 2. 造形学部プレゼンフォーラムの中間報告を実施 3. キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー補講について報告 4. 「献血ルーム新宿ギフト」での学生作品展示協力について報告
平成25年 10 月 8 日	1. A0 1 期の結果について報告 2. 造形学部プレゼンフォーラムについて報告 3. 文化祭計画・内容について確認 4. 造形学部卒業研究展・創作実習展について報告と依頼 5. 「インターンシップ報告会」について、報告と依頼
平成25年11月 12 日	1. 推薦入試の状況について報告 2. 平成 26 年度向けの学部共通予算について方向性を報告 3. 平成 25 年度卒業研究展・創作実習展の計画報告 4. 産学・地域連携プロジェクトの取り組みについて報告
平成25年12月 10 日	1. 平成 26 年度 A02 期及び留学生入試 1 期、編入学試験について結果を報告 2. 平成 25 年度造形学部卒業研究展のオープニングセレモニー 2. 平成 25 年度造形学部年間教育活動報告集「BZ」について報告 3. 「シラバス調整に関するワーキンググループ」担当者決定を報告
平成 26 年 1 月 7 日	1. 平成 26 年度 A02 期と編入学について報告 2. 平成 25 年度卒業研究展・創作実習展について報告 3. 平成 25 年度造形学部活動報告集『BZ』について確認 4. シラバス調整に関し、教員各自担当科目のシラバスの提出について依頼
平成26年 2 月 20 日	1. 平成 26 年度一般入試A日程の結果について報告 2. 卒業研究展・創作実習展の結果報告と来年度会期について報告 3. A 館 16、17、18、19 階の春期休暇中の移動について報告 3. 建築・インテリア学科の研究室名称と教員構成変更について報告 4. 平成 25 年度企業懇談会についてインターンシップ関連の教員出席を依頼
平成 26 年 3 月 5 日	1. 平成 26 年度一般入試B日程、センター入試Ⅲ期、留学生 2 期入試結果について報告 2. 平成 26 年度学部共通予算についての報告と依頼 3. 平成 25 年度造形学部事業計画の報告と承認

■検討組織名：学部共通科目協議会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 多方面の関係者が担当する「スタディスキルズ」をスムーズに確実に運営するために、担当科目を超えた関係者の検討の場を設定する。また、より充実した内容としてゆくために、アンケートの実施等の対策を検討する。結果として満足度の高い初年次教育の実現を目指す。【大】 2. 外国語科目の 2 年次選択科目の初年度を振り返り、各科目の学生数の想定をより現実に即したものとするための対策を検討する。【共】 3. 引き続き、英語のプレースメントテストの受験率の改善のため、方策を検討する。【共】 4. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 資格関連科目の充実化の一環として卒業生とより緊密な連携を図るよう対策に取り組む。【共】
取組の結果と点検・評価	1. 「スタディスキルズ検討ワーキンググループ」を発足させた。構成員は本協議会で「スタディスキルズ」を担当している 1 グループと各学科 1 人以上の主任教授、加えて副学長、主任教授とした。 服装学部、造形学部の学部横断的な同一必修科目であるため、共通の課題と学科に特化した課題のすり合せ、情報交換や共通認識すべき事項の確認を行い、併せて授業運営上の（学部共通と各学科との）役割分担の確認を行った。 また、教員と学生を対象にそれぞれ事後アンケートを行い、各学科における学生、担当者の要望等を確認し、課題を抽出した。【大】 2. 1 年次を対象に、2 年次開講の語学履修のための希望者アンケートを行い必要なコマ数を想定したが、アンケート実施時期が早かったこともあり、実態を反映する結果とはならなかった。選択科目の希望者数を推測するための方策が必要となった。【大】 3. 英語のプレースメントテストの受験率の改善のため、従来 2 回行っていたテストを 1 回とすることで学生の誤解や混乱を防ぎ、受験率の改善を図った。【共】 4. 引き続き文化祭グリル運営の補助業務に担当教員と副手が当たり、改善に向けて反省会を開催した。進学フェスタ、高校訪問に関する意見、広報に関する改革案を担当の 2 グループに集約し、委員会に諮った。【共】 5. 現在家庭科の教職に就いている卒業生を文化祭に合わせて学内に招待し、現行研究室との交流と卒業生間の相互の情報交換会を行った。中高の教育現場の実情を知る機会となり、教育実習の事前教育の講義には卒業生から 2 人の協力を得ることができた。情報交換は、今後、定期的に開催することとなった。【大】 点検・評価 平成 25 年度に課題として設定した事項は概ね達成された。 外国語科目の 2 年次選択科目の希望者数の割り出しに関しては課題が残ったが、「学生生活調査」で外国語科目の満足度が低下したことを受けて、1, 2 年次それぞれに、学年に対応した満足度のアンケートを行い、外国語科目に関する課題を一定程度明らかにすることができた。外国語科目の適切な履修者数とコマ数の問題を含み、授業の充実に関する基礎資料を得ることができた。
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 「スタディスキルズ」のアンケート結果の有効な活用の方法を検討する。【大】 2. 外国語に関するアンケート結果を有効に活用し、授業の改善に資する方法を検討する。【大】 3. 3 年次生対象の外国語が新カリキュラム(必修 4 単位)で開講され、平成 26 年度が完成年度となるため、新カリキュラム全体の課題を明らかにし、解決方法について検討する。【大】 4. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 教職の卒業生の会が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を考える。【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 4 月 1 日	1. 小グループ報告 「スタディスキルズ」配布資料 2 点、欠席者の認定評価の基準について 2. その他 新任教員の紹介と所属の小グループ、書記の交代について
平成25年 4 月 30 日	1. 委員会報告 入試対策委員会 高校訪問の時期を 7 月第 1 週までを目途にする オリエンテーションと履修登録について意見交換 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」の 2, 3, 4 回欠席者への対応について (2)語学のクラス分け終了 (3)留学生の日本語能力 (4)進学フェスタの担当研究室
平成25年 6 月 11 日	1. 委員会報告 入試対策委員会 高校訪問について意見交換 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」について (2)文化祭グリル担当者選出 3. その他 (3)外国語科目履修アンケートと実際の履修数の差について 学内研究発表会について
平成 25 年 7 月 9 日	1. 委員会報告 教務委員会 専門必修科目の他学部他学科生の履修の可否について 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」事後アンケートの配布 (2)グリル担当の副手を選出 3. その他 「スタディスキルズ」の効率的な授業運営について
平成 25 年 9 月 5 日	1. 委員会報告 教務委員会 (1)前期定期試験中の不正行為について (2)罰則の整備 IT 委員会 Windows XP を残す場合は LAN に接続せずに使用してほしい 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」アンケートの集計中 (2)3 回欠席者へ追加課題を配布 3. その他 (1)A0 入試 (2)学園創立 90 周年行事 (3)IFFTI 等への協力を要請
平成25年 10 月 8 日	1. 委員会報告 教務委員会 (1)通年科目の場合も半期科目同様、不正行為があった場合は単位を認定しない (2)コラボレーション科目の専門性について疑問がある 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」アンケートの結果報告 (2)出席管理等の授業補助業務が現行の副手だけでは担えない (3)各学科が援助する体制への転換が急務 (4)外国語科目に関するアンケートを作成中、実施時期は未定 3. その他 家庭科の教職に就いている卒業生を文化祭に招待
平成25年11月12日	1. 委員会報告 教務委員会 (1)コラボレーション科目 前期42科目・1627名、後期19科目・763 名→教務課提案、前期のみ開講で、学部必修 2 単位ではどうか。 (2)前後期の授業回数と定期試験について (3)非常勤講師の規程について 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」検討ワーキンググループが発足した 3. その他 教職に就いている卒業生の集いが有意義であった、美術科でも検討するか
平成25年12月10日	1. 委員会報告 教務委員会 学費納入の細則が変更 2. 小グループ報告 (1)「スタディスキルズ」授業の業務分担について WG で各学科の協力を要請 (2)すべての外国語を対象にアンケートを実施した 3. その他 シラバス調整 WG について
平成 26 年 1 月 7 日	1. 委員会報告 教務委員会 学費納入の個別事例、編入生の単位認定について 2. その他 シラバスは要領に基づいて具体的な記述をする。早期提出
平成26年 2 月 10 日	1. 委員会報告 教務委員会 (1)新設科目は遅くとも 6 月までには協議できるようにしてほしい 2. 小グループ報告 外国語科目のアンケート結果から、課題解決に向けて意見を集約したい 3. その他 シラバス調整 WG について 入試広報に関する改善案を 2 グループへ
平成 26 年 3 月 5 日	1. 委員会報告 教務委員会 (1)コラボ科目の単位数 (2)シラバス WG (3)進級条件が現行の課題 2. 小グループ報告 平成26年度「スタディスキルズ」体制 高校訪問等に関する委員会提出改善案 3. その他 平成 26 年度英語クラス分けテストについて

■検討組織名：現代文化学部協議会

報告者：青柳 宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 「現代文化学部改善検討会」を継続し、学生に大学で勉強する実感を持たせ、就職活動を含めた大学生活の充実、能力開発などの総合的學生支援を検討する。 2. ディプロマポリシーに基づいたカリキュラムを作成し、ディプロマポリシーを達成するために、学科の教員間の連携を密にし、学科として学生を育てる体制を作る。シラバスも学生の到達目標を明確にし、新しい評価方法を検討する。 3. インターンシップの新規受入企業の開拓、学生の就職先の企業訪問等を行い、就職先企業との繋がりを深めていき、次年度の就職に繋げていく。 4. 募集層の拡大と優秀な学生を確保することを目的とし、「国際文化・観光学科」と「応用健康心理学科」を対象に、社会人入試と特待生入試を実施する。 5. 日本人学生による留学生のチューター活動を充実させる。 6. 教員の研究発表や論文発表、さらに科研費等への応募を積極的に勧めていく。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 3 学科のカリキュラムを大幅に改訂した（平成25年11月12日教授会承認）。「現代文化学部改善検討会」の役割を、「主任教授・研究室長会議」に移行し、カリキュラム以外の学生支援については、学生支援委員会からの提案事項について検討し改善した。 2. 学科・コースごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリー、カリキュラム体系図を作成し、各科目間の繋がりを明らかにし、教員が学科として学生を育てる意識を持つことを確認した。シラバスも到達目標を「〇〇ができる」と明確にし、また教員のワーキンググループでシラバスチェックを行った。 3. インターンシップは、23 社で34名の学生が実施。昨年より 2 社、4 名増加。学生の就職先への企業訪問は、就職委員の教員が担当し、全教員に広げることではできなかった。 4. 社会人入試、特待生入試ともに応募者はなかった。社会人入試は平成26年度も実施する。特待生入試については、全学部に対象を広げ、学部ごとに若干名の募集とする。 5. 参加者が多く、日本人学生がチューター活動の経験者ということもあり、活発に展開した。 6. 学内の科学研究費補助金公募説明会には、多くの教員が参加した。ファッションビジネス学会、国際ファッション工科大学連盟（IFFTI）、研究紀要、学内研究発表会等でも、積極的に発表した。しかし、科学研究費補助金等への応募は少なく、さらに論文発表、科研費等への応募を勧めたい。 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 現代文化学部を新都心キャンパスに移転する。移転の目標時期は平成 27 年 4 月とし、移転作業がスムーズに行えるようワーキンググループを設置し、作業を進める。 2. 文化学園大学創立 50 周年を記念し、これを冠とした行事をけやき祭で行う。 3. 「主任教授・研究室長会議」を充実させ、学生に大学で勉強する実感を持たせ、就職活動を含めた大学生活の充実、能力開発等の総合的學生支援の検討、また、学生指導を行う上で必要な教員のための研究・教育環境の検討を行う。 4. 時代のニーズへの対応と活性化を目指した体系的な新カリキュラムをスタートさせ、教育の充実を図る。 5. FD 活動の一環として専任教員、非常勤講師全員が学部教育方針を理解し、ディプロマポリシーに則った人材育成を図る。 6. 地域社会の発展及び学生の実践的活動を充実させるために、産学連携・地域連携型教育をさらに推進する。 7. インターンシップ及び学外研修等を充実させ、インターンシップの新規受け入れ企業の開拓と、卒業生と在学生在が交流を持てる機会を提供し、就業力を高める。 【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 9 日	1. 平成 26 年度現代文化学部基本方針について 新カリキュラムについて、教員の研究について 2. 学生授業アンケートについて
平成25年 4 月 30 日	1. 新カリキュラムの検討について 2. 時間割の変更、学生の欠席等について 3. 校外授業の保険適用について
平成25年 6 月 18 日	1. 国際文化・観光学科と応用健康心理学科の学費改定について 2. 社会人入試、特待生入試、留学生入試について 3. けやき祭について 4. 学生の居場所づくりについて 5. Gmail を用いた定期試験の連絡方法について
平成25年 7 月 23 日	1. 新カリキュラムについて 2. 進学フェスタについて 3. 学生の喫煙について
平成 25 年 9 月 5 日	1. 新カリキュラムについて 2. シラバスについて 3. 学生の居場所について
平成25年10月 15 日	1. 新カリキュラムについて 2. 進学相談会について 3. 教養科目・キャリア形成科目の検討部署について 4. 学内研究発表会について
平成25年11月 19 日	1. 小田急電鉄との産学連携について 2. けやき祭日程について 3. 推薦入試結果について
平成25年12月 10 日	1. 卒業イベントについて 2. シラバス調整に関するワーキンググループについて 3. けやき祭について
平成 26 年 1 月 7 日	1. 新カリキュラムについて カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、カリキュラム体系図の作成 2. 喫煙場所について
平成26年 2 月 20 日	1. 定期試験における不正行為等について 2. 非常勤講師との懇談会について 3. 現代文化学部の新都心キャンパスへの移転について 4. シラバスチェックについて 5. 学内研究発表会について

■検討組織名：文化学園大学短期大学部協議会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 新短期大学部ワーキンググループを中心として (1) 新短期大学部服装学科の中長期計画の策定 (2) 新 3 コース・新専攻科の教育計画に関する PDCA の実行 (3) 新短期大学に関する広報（パブリシティ）活動の活性化 2. 現服装学科・生活造形学科を中心として (1) GP 型教育（学生チームによるブランドビジネスモデルの構築）授業の充実 (2) キャリア支援（就職支援）の強化 (3) 教員の FD 活動（研究・論文・発表等）の促進 【短】
取組の結果と 点検・評価	1. 新短期大学部ワーキンググループを中心として (1) 新短期大学部服装学科のコース編成に伴い、アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーを提案し、中・長期計画を策定した。 (2) 新 3 コース及び新専攻科の教育計画に関して、シラバスの全面的見直しを図り効果の上がる授業計画を推進した。 (3) 新短期大学に関する広報の強化策として、短期大学部指定高校制度を検討し決定された。また在校生による母校訪問を推進した。 2. 現服装学科・生活造形学科を中心として (1) GP 型教育（学生チームによるブランドビジネスモデルの構築）授業は P・D・C・A サイクルにそって推移し公开发表会を以て大いなる成果を挙げることが出来た。 (2) キャリア支援（就職活動）については、キャリア支援担当を設置し個別指導を強化した。キャリアデザイン実践編授業を導入し、今後の活動につなげた。 (3) 教員の FD 活動については、個々に対して啓発を推進し成果と実績をあげた。 【短】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 新短期大学構想の実践を中心として (1) 3 コース・専攻科被服専攻の運営体制の強化と協力 (2) 短期大学部指定高校制度の活用とホームページの充実 (3) 専攻科ファッション専攻の具体的実行計画の策定 (4) キャリア支援のための実行計画策定と実践 【短】

■検討組織名：文化学園大学短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	1. 新短期大学部服装学科スタート 2. 平成 25 年度新入生 3. 進学フェスタ日程 4. 委員会報告
平成25年 4 月 26 日	1. 新年度スタートに関する事項 2. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマン キャンパー」 3. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」 4. 進学フェス タ等 5. 平成 26 年度カリキュラム改定 6. LAZONA 川崎プラザ産学連携 7. バザー委 員会 8. 委員会報告 9. 産学連携ホビーショー、キャリア支援等
平成25年 5 月 23 日	1. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」 2. 進学フェスタ 3. A 館 window 展示 4. 大学 HP 5. 文化祭バザー査定 6. LAZONA 川崎プラザ産学連携 7. 川崎市立川崎高校出講 8. 台湾実践大学夏期研修 9. 府中市美術館関連講座 10. 学 内研究発表会 11. 平成 27 年度専攻科授業計画 12. 高校訪問 13. GP 経費 14. 備品 申請 15. 委員会報告等
平成25年 6 月 20 日	1. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」 2. 進学フェスタ 3. 高校 訪問 4. 大学 HP 5. LAZONA 川崎プラザ産学連携 6. 台湾実践大学夏期研修 7. 川崎市立川崎高校出講 8. 府中市美術館関連講座 9. 捺染室の運用状況 10. FD. SD 研修会、分科会 11. 学内研究発表会 12. 平成 26 年度専攻科授業計画 13. 委員会報 告等
平成25年 7 月 18 日	1. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」終了 2. 公開授業 3. 高校 訪問 4. サマーオープンカレッジ 2013 5. 平成 26 年度入学前学習 6. 大学 HP 7. LAZONA 川崎プラザ産学連携 8. 川崎市立川崎高校出講 9. 全学 FD. SD 研修会、分科会 10. 学内研究発表会 11. 夏期休暇中の連絡 12. 委員会報告等
平成 25 年 8 月 5 日	1. 進学関係 2. 文化祭関係 3. LAZONA 川崎プラザ全学 4. FD・SD 研修会 5. 学内研究発表会 6. 府中美術館コラボ 7. LUMINE 計画 8. 夏期休暇中の連絡 9. 学生の動向 10. 委員会報告等
平成 25 年 9 月 6 日	1. 進学関係 2. 前期コラボレーション科目 3. 文化祭関係 4. LAZONA 川崎プラザ 全学 FD. SD 研修会 6. 学内研究発表会の件 7. 府中美術館コラボ 8. LUMINE 計画 9. GP 発表会 10. 委員会報告
平成25年10月 17 日	1. 進学関係 2. 球技祭・文化祭 3. 府中美術館コラボ 4. LUMINE 計画 5. GP 発表会 6. 大学学部より短期大学部への転学 7. AD 画廊展示 8. 委員会報告
平成25年11月 14 日	1. 進学関係 2. 文化祭 3. 府中美術館コラボ 4. LUMINE 計画 5. GP 発表会 6. 産学連携事業 7. 委員会報告等
平成25年12月 19 日	1. 進学関係 2. 府中美術館コラボ 3. GP 発表会 4. LUMINE 計画 5. IFFTI (1/27 ～1/31) 6. 平成 26 年度授業計画・シラバス 7. 委員会報告等
平成26年 1 月 7 日	1. 進学関係 2. 短期大学部生活造形学科創作実習展 3. GP 発表会 4. LUMINE 計 画 5. 平成 26 年度事業計画 6. 平成 26 年度授業計画・シラバス 7. 委員会報告
平成26年 2 月 10 日	1. LUMINE 展示終了 2. 短期大学部生活造形学科 Last Menu “Dessert” 3. 卒業生・ 進級学生の状況 4. 進学関係 5. 平成 26 年度事業計画 6. 委員会報告等
平成 26 年 3 月 6 日	1. 濱田短期大学部主事挨拶 2. 新入生及び平成 26 年度フェスタ 3. 平成 26 年度事 業計画 4. 委員会報告等

審 議 ・ 決 定 機 関

■検討組織名：大学院生活環境学研究科委員会

報告者：田村 照子

提出日：平成 26 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	- 平成25年度も年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。オリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 - 平成25年度は新カリキュラム完成年度に当たる。特に新規設置されたグローバルファッション(GF)専修、アドバンスドファッションデザイン(AF)専修の2専修については、授業内容・設備の充実、英語で授業可能な教員の拡充、教員の英語力のさらなる向上等が課題である。また、修了年次生の論文指導についても十分な対応が課題である。 - 平成24年度の文部科学省公募博士課程教育リーディングプログラムは不採択に終わったが、これを機に、本学が世界のファッション研究・教育のリーディング大学院として認知されることを目指した次なるステップが課題である。院生への経済支援・教育環境の整備・研究支援の向上、さらには教員の研究・教育の質の向上こそが重要である。大学院 FD ワーキング・グループによる自己研鑽、国内・海外研修制度による教員研修の実施、教員の学会活動の活性化等を平成25年度の課題としたい。国際ファッション工科大学連盟(IFFTI)や連携大学を通しての教員・学生の国際交流の推進も視野に入れる。【大】
取組の結果と 点検・評価	- 平成25年度予定した大学院関連行事はいずれも盛会裏に終了。大学院セミナーは参加70名、1名の博士、18名の修士論文中間報告に対し活発かつ有意義な討議が行なわれた。オムニバス授業は「伝統と革新」の総合テーマの下、特任教授を含め他大学・企業からの幅広い陣容による授業がなされた。この他、文化祭への参加、修了パーティの企画実施等についても、院生が自主的に運営、院生相互のコミュニケーションを含め、教育・研究上の成果をあげる事ができた。 - 委員会は月例で実施、さらにセミナー期間中の集中的ミーティングを通して多くの課題を解決した。大学院独自に発足させた FD ワーキング・グループでは学生のニーズ調査等活動を推進した。平成 24 年度発足の専修制度は軌道に乗り、新設の GF 専修には平成25年度海外から4名が入学、AF 専修への新入学生も平成25年度には4名が入学、それぞれ各種コンテスト入賞など成果を上げている。さらなるカリキュラム改革・研究設備の充実を図り、順調に推移している。 - 文部科学省公募博士課程教育リーディングプログラム不採択の後を受けた活動としては、大学全体としての研究戦略会議に受け継がれ、課題の抽出・対応が検討されている。【大】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	- 平成26年度においても年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。オリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 - 平成24年度に新設された GF 専修、AF 専修の2専修を含め、各専修のカリキュラムのさらなる整備・充実を図り、国内外からの入学志望者の増加につなげるような教育内容の充実が課題である。また、修了年次生の論文指導についても各先週における十分な対応が求められる。 - 平成26年度は、本学が世界のファッション研究・教育のリーディング大学院として発展し、世界に認知されることを目指した次なるステップが課題である。院生への経済支援・教育環境の整備・研究支援の向上、さらには平成25年度発足した研究戦略検討会との連携の下、教員の研究・教育の質の向上こそが重要である。大学院 FD ワーキング・グループによる自己研鑽、国内・海外研平成教員の研究の活性化及び修制度による教員研修の実施、教員の学会活動の活性化等を次年度の課題としたい。 - 本学大学院には世界各国からの入学希望者が潜在的に存在している。国内外に対する広報活動、その一環としてのホームページの充実も重要な課題である。【大】

■検討組織名：大学院生活環境学研究科

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年4月17日	1. 大学院生活環境学研究科委員会構成員の対象を教授限定から特別研究の指導教員に拡大、平成25年度新構成員を承認 2. 平成25年度ティーチング・アシスタント(TA)及びリサーチ・アシスタント(RA)を承認 4. グローバルアクション(以下GF)専修の特別研究について継続審議 5. 学位規則の改正に伴う本学学位規程の改正を承認 他
平成25年5月15日	1. 平成25年度被服学・生活環境学特別研究正副指導教員を承認 2. 大学院セミナーの日程、発表形式(英語発表に対する質疑の方法、日本語発表の英文併記等)を検討・承認 3. 平成25年度博士論文指導教員を承認 他
平成25年6月12日	1. 平成25年度被服学特別研究の指導教員を一部変更して承認 2. 大学院セミナーの修了年次性と論文テーマを確認、教員の役割分担、発表順、アンケート内容を決定 3. 建築・インテリア学専修のカリキュラム改定を承認 4. 学生異動、大学院研究生入学判定を承認 5. GF 専修の特別研究の形式は研究指導者に一任することを承認 6. 社会人入学については継続審議
平成25年6月27日	1. 大学院セミナー開催(6月27日～29日)中の委員会であり自由討議とした。討議内容は、1) 大学院における社会人枠の設置と実施可能性について 2) 大学(院)の目的、教育、研究などに関する根底的議論の不在について 3) 生活環境学専攻の博士後期課程の設置に関して 他
平成25年7月17日	1. 大学院セミナーの総括として GF 専修の発表も含め極めて有効であった。ミーティングの内容については今後の検討課題とする 2. 大学院生からの要望について対応できる事項は対応し、全体的な取り組みは小委員会にて検討することを承認
平成25年9月6日	1. TA申請に関する申合せ事項(改定案)を承認 2. 特別研究 研究計画書改訂案を承認 3. 平成24年度活動報告書、平成26年度大学院パンフレット及び入学試験要項(英語併記)完成 4. ノッティンガム・トレント大学大学院生研修予定 5. 入賞報告
平成25年10月2日	1. 平成26年度大学院入試日程と出題者を決定 2. RA 及び TA の継続、採用申請について審議 3. GF 専修「インターンシップ」に係る書類として現行様式を承認、平成26年度以降は再検討。GF 専修1年次研究計画書(様式)を承認 4. 院生の入賞報告 5. 「大学ポートレート」実施に向け、大学院シラバス・授業内容の見直し検討を決定
平成25年10月30日	1. GF 専修修了年次生研究計画書(様式)について承認 2. GF 専修1年次の修士論文・修了制作の指導教員は本研究科委員会の専任教員とし、副指導教員は非常勤教員も可を承認 3. 院生の入賞報告 4. GF 専修向け日本語講座の開講を検討 5. 博士後期課程レベルの英語による開講について検討の結果、現状では困難、ただし英語による博士論文の指導提出は可の結論 他
平成25年12月4日	1. GF 専修1年の修士論文・修了制作の指導教員を承認 2. 平成26年度カリキュラム及び担当教員について承認 3. 学生異動を承認 4. 修了年次生の研究計画書提出状況報告 5. 院生の受賞報告 6. 平成26年度の修論発表会他各活動担当教員を決定 7. GF 専修向け日本語講座は文化外国語専門学校開講クラスの受講(減免措置有)を決定 8. GF 専修生の実習教室について検討 9. 平成26年度シラバスの検討委員を決定 10. 平成26年度大学院セミナー日程決定 11. 「文化学園リポジトリ」への学位論文登録申請・公開許諾書(案)を審議
平成26年1月24日	1. 修士論文審査教員、修士論文発表会日程、司会進行教員を決定 2. 学則変更を承認 3. 平成26年度「生活環境学特別講義A・B」の担当者を承認 4. 平成26年度生活環境学研究科委員会日程提案 5. 2014 IFFTI 国際会議への協力要請 6. 生活環境学専攻修了研究・制作展開催案内 7. 博士論文(乙)の予備審査により受理を決定、審査教員及び公聴会の日程決定
平成26年2月21日	1. 平成25年度被服学専攻10名・生活環境学専攻5名の修了を判定、卒業式代表者決定 2. 平成26年度カリキュラム、「生活環境学特別講義A・B」及び担当教員について承認一部継続審議 3. 専任教員、学生異動を承認 4. 平成26年度大学院生活環境学研究科委員会日程承認 5. TA 採用申請書様式承認 6. 博士課程カリキュラム変更及び担当教員を承認 7. 学生異動承認 8. 学位論文の「文化学園リポジトリ」への登録申請・公開許諾書(案)を承認
平成26年2月28日	1. カリキュラムについて一部単位数の変更を承認 2. 学生異動を承認 3. 博士論文(乙)最終審査終了(博乙第28号) 4. 平成25年度被服環境学専攻修了者について全員修了不可と判定 5. カリキュラムの一部変更を承認 6. 学生異動を承認

■検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

報告者：野口 京子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 通年 4 単位科目を半期 2 単位科目に移行し、専門分野別に半期完結の科目を置き、研究科名に合致した授業内容をもつように、カリキュラムを検討する。また、健康心理学専修は、学会専門資格、あるいは進行中の国家資格取得を視野に入れたカリキュラムを検討する。 2. 以下の教育・研究の成果を上げることが目的とし、「国際文化研究特別講義」(オムニバス形式)を充実させる。①複合分野の研究の創生・強化を図る。②他専修の大学院担当教員の研究内容や研究方法を知り、連携の可能性を模索し、3 専修の共通テーマを発展させる。③上記の実践により、院生のディスカッション力、コミュニケーション力を強化する。 3. 院生として必要な語学学習と国際化のために、以下を推進し、語学環境を整える。 (1) 教材に英文のジャーナル等を採用することにより、グローバルな視点を広げる。 (2) 英文によるアブストラクト作成、英語のプレゼンテーション能力向上を図る。 4. 「民族の心とファッション」を 3 専修研究共通テーマとし、科目の充実を図る。 5. 修士論文が、個人の学問的探求の成果、社会的ニーズへの対応や問題解決に資する提案となるように指導に取り組む。【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 研究科、専修、科目名に合致した授業内容をもつようにカリキュラムを検討し、通年 4 単位科目を半期 2 単位科目にわけ、専門分野別に半期完結の科目を、前期、後期に設置した。健康心理学専修は、専門健康心理士資格取得のための科目導入を試みた。 2. 「国際文化研究特別講義」(オムニバス形式)において、①複合分野の研究の創生 ②他研究科、他専修の大学院担当教員の研究発表聴講などにより内容の強化を図った。3 専修の研究手法の検討、共通テーマの確認、連携の可能性を模索していくなかで、院生のディスカッション力、コミュニケーション力を強化することができた。 3. (1) グローバルな視点を広げるための英文ジャーナル等の採用、(2) 英文による修士論文のアブストラクト作成、などは達成できたが、さらに学生の語学環境の充実化が必要である。 4. 3 専修の横断的研究テーマ「民族の心とファッション」は様々な視点からの探究が必要であった。研究が発展していく可能性を得たので、その経過、結果を発信していくことを検討した。 5. 修士論文執筆者は、文化、ファッションと人々の Quality of Life の関連に関しての考察を進めている。【大】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 現代文化学部を基盤に持つ国際文化研究科としての立場、在り方を再検討していく。 2. 国際文化研究科の教員の研究あるいは実践の成果の発表の場として、「国際文化研究」の発刊を検討する。 3. 平成25年度に継続してオムニバス形式の「国際文化研究特別講義」を充実させる。3 専修のそれぞれが包含する内容を「民族の心とファッション」という主題に集約したオムニバス授業を通して、参加者の共通課題に対する研究動機が高まってきたので、平成26年度は、過去・現在・未来の諸相を再検討・再評価・予想することを試みていく。各専修共通の「調査研究法」の科目も設定したので、その実行可能性も高まった。平成26年度は、本格的に本主題の研究活動を進めていく。 4. 他研究科との連携の可能性を考える。平成27年度から科目登録や研修会に関して本学生生活環境学研究科と緊密な連携を進めていくことを目指して具体的な検討を始める。 5. 個々の研究分野の研鑽を重視しながら、さらに、国際文化研究科の特徴を出すことを目的とし、継続して、(1) 複合分野の研究の創生・強化を図り、(2) 他専修の大学院担当教員の研究内容、研究方法などを理解して連携の可能性を模索し、(3) 共通プロジェクトへ発展させる。【大】

■検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年4月6日	1. 平成25年度国際文化研究科委員会の委員、新委員紹介、担当科目を確認した。 2. 国際文化研究科の知的分野・創造的分野・技術分野の向上のための研究体制を確認した。
平成25年4月23日	1. 平成25年度の国際文化研究科(将来計画、研究推進、小委員会)の方向性を議論した。 2. 平成25年度 修士論文指導教員（主査・副査）について確認した。 3. 平成25年度の国際文化研究特別講義、TA、根岸愛子特別奨学金授与者を決定した。
平成25年5月21日	1. 各専修のカリキュラムの検討とモデル案を作成した。 2. 「国際文化研究特別講義（民族の心とファッション）」を3専修の共通研究課題とした。 3. 学生募集のパンフレットとHPの内容、行事・交流小委員会の拡充について検討した。
平成25年7月2日	1. 国際文化研究科のカリキュラムについて継続して検討を行った。 2. 平成26年度の入学案内パンフレットについて変更点を検討した。 3. 研修会（修了年次中間発表）について詳細を確認した。
平成25年7月23日	1. カリキュラム変更に伴い、平成26年度より国際文化研究科の履修方法を変更した。 2. 各専修のディプロマポリシーを、カリキュラムとの整合性をみながら再確認した。 3. 国際文化研修会終了の報告と次回以降の在り方について検討した。
平成25年9月17日	1. 大学院入試1期の問題を確認した。 2. ディプロマポリシーとカリキュラムの整合性について検討した。 3. 「あかしあ会」のありかたについて検討した。
平成25年10月22日	1. ティーチング・アシスタント(TA)の申合せ事項を確認した。 2. 平成26年度の国際文化研究科の予算、並びに大学院自習室の備品購入予算を申請した。 3. 平成26年度履修要項の記載事項を確定した。
平成25年11月26日	1. 平成26年度以降のカリキュラムについて継続審議した。 2. シラバス調整に関するワーキンググループを設置し学部カリキュラムとの調整を図った。 3. 大学院入試2期の問題提出者を決定した。
平成25年12月17日	1. 大学院入試2期の問題を確定した。 2. 平成26年度の科目内容の重複の調整とシラバス執筆要項を確認した。 3. 平成25年度修士論文の英文アブストラクト提出、平成26年度の「国際文化研究特別講義」のスケジュールを決定した。
平成26年1月14日	1. 平成26年度の事業計画として、(1)「国際文化研究特別講義」を共同研究に繋げる(2)学生確保を念頭においた「けやき祭」の催し(3)大学創立50周年を意識した講演等を考えた。 2. 大学院入試2期出題問題を確定した。 3. シラバス執筆者を決定し依頼した。 4. 修士論文発表会の詳細を確定した。
平成26年2月14日	1. 平成25年度の修了判定と留年判定を行なった。 2. 修了式の研究科代表を決定した。 3. 留学生納入金改訂、特任教授、国際文化研究特別講義日程が報告された。 4. 文化学園大学大学院学則変更を承認した。
平成26年3月19日	1. 学生異動についてすべて承認した。 2. 3専修のディプロマポリシーを決定した。 3. 「けやき祭」に関連した新しい事業計画について、平成26年度は見送りとした。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度新入生数について 3. 平成26年度入試関係について 4. 平成 25 年度入学式・保護者懇談会・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプ－」打ち合わせについて 6. 附属高等学校の大学見学会について 7. 海外インターシップについて 8. 服装学部服装造形学科ファッションショーの開催について 9. 平成 25 年度避難訓練について 10. 研究室・教室等の変更について 11. 平成 24 年度卒業判定会議における認定保留者について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 研究生入学許可について
平成 25 年 7 月 9 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成26年度入試関係について前期 3. 定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 平成 26 年度教員の国内外研修申請について 6. 科学研究費事業について 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 25 年 9 月 5 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 第 35 回球技祭について 4. 学生会サミット（代議員大会）について 【審議事項】 1. 平成 25 年度前期定期試験における不正行為者について 2. 学生異動について 3. 公欠審議について
平成25年11月 12 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について
平成25年12月 10 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 年末年始休暇について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について
平成 26 年 1 月 7 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 後期定期試験について 4. 造形学部卒業研究展、短大部生活造形学科創作実習展、専攻科被服専攻作品展示等について 5. 武漢紡織大学との協議書の締結について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について
平成 26 年 3 月 5 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 研究委員平成26年度入試関係について 3. 平成25年度卒業式・平成26年度入学式について 4. 教員春季休暇について 5. 新年度のスケジュールについて 【審議事項】 1. 特任教員について 2. 学生異動について 3. 研究生・科目等履修生入学許可について 4. 学則変更について
平成26年 3 月 20 日	【審議事項】 1. 現代文化学部の移転について

■検討組織名：文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成25年 6 月 11 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプー」終了について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について
平成25年 10 月 8 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 平成 26 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 26 年度任期制助手の採用について 5. 平成 26 年度副手の採用申請について 6. 平成 25 年度卒業式・平成 26 年度入学式日程について 7. 文化祭について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 平成 25 年 9 月卒業について 3. 公欠審議について
平成25年11月 12 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について
平成26年 2 月 20 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 【審議事項】 1. 教員異動について〔正教授会（第 8 条教授会）報告〕 2. 学生異動について

■検討組織名：文化学園大学現代文化学部教授会開催記録

報告者：青柳 宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成25年 6 月 18 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成26年度入試関係について 3. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプー」終了について 4. 留学生歌舞伎鑑賞教室について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 留学終了者・留学願出者について 3. AUB 特別単位認定について
平成25年10月 15 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成26年度入試関係について 3. 平成 26 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 26 年度任期制助手の採用について 5. 平成25年度卒業式・平成26年度入学式日程について 6. 文化祭について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 平成25年 9 月卒業について 3. 公欠審議について
平成25年11月 19 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 公欠審議について

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成25年 5 月 21 日	【報告事項】 1. 平成 26 年度入試関係 2. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプ－」報告
平成25年 7 月 23 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係 【審議事項】 1. 学生異動について
平成25年12月 17 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 26 年度入試関係について 3. 生活造形学科創作実習展・専攻科作品展示について
平成26年 2 月 26 日	【報告事項】 1. 平成 26 年度入試関係 2. 短期大学部専攻科被服専攻修了製作作品展示報告 3. 短期大学部生活造形学科創作実習展報告 【審議事項】 1. 学生異動について

審 議 機 関

■検討組織名：教務委員会

報告者：小柴 朋子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 4. 「コラボレーション科目」の充実 5. Web 履修登録実施に向けての諸問題の検討（後期履修登録についてを含む） 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 文化・ファッションテキスト研究所規程（案）、和装文化研究所規程（案）、文化学園大学若手教員の武漢紡織大学での研修に関する規程（案）、文化学園大学の教員の任用に関する規程（改定案）、同短期大学部の教員の任用に関する規程（改定案）、文化学園大学の教員の任期に関する規程（改定案）、同短期大学部の教員の任期に関する規程（改定案）、文化学園大学の教員の任期に関する規程細則（改定案）、同短期大学部の教員の任期に関する規程細則（改定案）、文化学園大学入学者選考規程（改定案）、同短期大学部入学者選考規程（改定案）、文化学園大学入学者選抜に関する規程（改定案）、同短期大学部入学者選抜に関する規程（改定案）、文化学園大学外国人学生・外国人留学生規程（改定案）、同短期大学部外国人学生・外国人留学生規程（改定案）、武漢紡織大学からの編入学についての取決め（案）、文化学園大学 AUB 特別留学プログラム実施要項（改定案）、文化学園大学海外提携校への留学奨励金規程（案）、文化学園大学大規模災害被災者救援奨学金規程（改定案）、同短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程（改定案）、文化学園大学非常勤講師に関する規程（案）、同短期大学部非常勤講師に関する規程（案）、文化学園大学学費納入に関する細則（改定案）、同短期大学部学費納入に関する細則（改定案）、文化学園大学休学・復学に関する細則（改定案）、同短期大学部休学・復学に関する細則（改定案）、文化学園大学特待生制度規程（案）、文化学園大学長期履修制度規程（案）、長期履修申請書（案）、長期履修期間変更申請書（延長・短縮）（案）、単位履修に関する細則（改定案）、単位履修に関する細則・申合せ事項（改定案）、文化学園大学学則変更（案）、同短期大学部学則変更（案） 2. 授業日程の調整と検討 平成25年度に実施した授業回数について検討を行った。回数の妥当性や生じた諸問題について審議し、平成 26 年度は、引き続き平成 25 年度と同様の授業日数とすることとした。 3. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 外国語科目・服装学部服装造形学科・服装学部服装社会学科・造形学部生活造形学科・現代文化学部・短期大学部専攻科の各カリキュラム改定案について審議を行い、承認した。 4. 「コラボレーション科目」の充実 コラボレーション科目について、開講時期、単位数について、各ブロックにおける意見を集約し、科目のあり方、シラバスのチェック法などについては、継続審議とした。平成 26 年度は後期コラボレーション科目の開講日数を 3 日間とすることとした。 5. Web 履修登録実施に向けての諸問題の検討（後期履修登録についてを含む） 大学のコンピュータ関連の整備状況に合わせ、包括的に審議することの必要性について共通理解し、後期履修登録についての検討は、今後の継続審議とした。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 4. シラバスの書式、内容のチェック体制についての検討 5. 「コラボレーション科目」の検討 【共】

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 9 日	1. 現代文化学部カリキュラム改定に関する検討 (小平小委員会)
平成25年 4 月 16 日	1. 今年度の検討課題の確認 2. 諸規程改定に関する確認 3. 年間スケジュールの確認
平成25年 5 月 28 日	1. 文化・ファッションテキスト研究所規程(案) 2. 和装文化研究所規程(案) 3. 文化学園大学若手教員の武漢紡織大学での研修に関する規程(案) 4. 文化学園大学の教員の任用に関する規程(改定案) 5. 同短期大学部の教員の任用に関する規程(改定案) 6. 文化学園大学の教員の任期に関する規程(改定案) 7. 同短期大学部の教員の任期に関する規程(改定案) 8. 文化学園大学の教員の任期に関する規程細則(改定案) 9. 同短期大学部の教員の任期に関する規程細則(改定案) 10. カリキュラム変更の日程 (1～9 平成 25 年 6 月 11 日教授会承認)
平成25年 6 月 25 日	1. 学則変更 2. 文化学園大学入学者選考規程(改定案) 3. 同短期大学部入学者選考規程(改定案) 4. 文化学園大学入学者選抜に関する規程(改定案) 5. 同短期大学部入学者選抜に関する規程(改定案) 6. 文化学園大学外国人学生・外国人留学生規程(改定案) 7. 同短期大学部外国人学生・外国人留学生規程(改定案) 8. 武漢紡織大学からの編入学についての取決め(案) 9. 文化学園大学 AUB 特別留学プログラム実施要項(改定案) 10. 単位履修に関する細則・申合せ事項及び単位履修に関する細則・事例の検討 11. 他学部・他学科履修 (1～9 平成 25 年 7 月 9 日教授会承認)
平成 25 年 7 月 3 日	1. 現代文化学部カリキュラム改定に関する検討 (小平小委員会)
平成25年 7 月 17 日	1. 現代文化学部カリキュラム改定に関する検討 (小平小委員会)
平成 25 年 8 月 5 日	1. 各学科のカリキュラム改定(案)の審議
平成25年 9 月 17 日	1. 各学科のカリキュラム改定(案)の審議
平成25年 10 月 8 日	1. 現代文化学部カリキュラム改定に関する検討 (小平小委員会)
平成25年10月 15 日	1. 現代文化学部カリキュラム改定に関する検討 (小平小委員会)
平成25年10月 29 日	1. 文化学園大学海外提携校への留学奨励金規程(案) 2. 文化学園大学大規模災害被災者救援奨学金規程(改定案) 3. 同短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程(改定案) 4. カリキュラム改定(案)(外国語科目・服装学部・造形学部生活造形学科・現代文化学部) 5. 平成 26 年度授業日程表(案) 6. コラボレーション科目 7. 取得単位数と GPA の関係 (1～4 平成 25 年 11 月 12 日教授会承認)
平成25年11月 19 日	1. 他学部・他学科の履修に関する細則(改定案) 2. 取得余剰単位の充当 (小平小委員会)
平成25年 12 月 3 日	1. 平成26年度授業日程 2. 文化学園大学非常勤講師に関する規程(案) 3. 同短期大学部非常勤講師に関する規程(案) 4. 文化学園大学学費納入に関する細則(改定案) 5. 同短期大学部学費納入に関する細則(改定案) 6. 文化学園大学休学・復学に関する細則(改定案) 7. 同短期大学部休学・復学に関する細則(改定案) 8. 文化学園大学特待生制度規程(案) 9. 文化学園大学長期履修制度規程(案) 10. 長期履修申請書(案) 11. 長期履修期間変更申請書(延長・短縮)(案) 12. 編入生単位認定、不正行為、教場試験、2 年次の進級条件、他学部・他学科履修の検討 (2～11 平成 25 年 12 月 10 日 教授会承認)
平成26年 1 月 14 日	1. 文化学園大学短期大学部専攻科カリキュラム改定(案) 2. 単位履修に関する細則(改定案) 3. 単位履修に関する細則・申合せ事項(改定案) (1 及び 3 平成 26 年 2 月 20 日教授会承認)
平成26年 2 月 10 日	1. 単位履修に関する細則(改定案) 2. 文化学園大学学則変更(案) 3. 同短期大学部学則変更(案) (1～3 平成 26 年 2 月 20 日教授会承認)
平成26年 2 月 25 日	1. シラバスチェックの課題に関する検討
平成26年 3 月 19 日	1. 平成 25 年度 自己点検・評価報告書の確認

■検討組織名：学生支援委員会

報告者：スワット チャロンポ ソーニッチ

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 ひきつづき男子学生が増加する中、その支援や対応のしかたなど、浮上する可能性のある諸問題。また初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上や啓発。少人数担任制のあり方について引き続き検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 初年次生の具体的な支援活動及び継続的なメンタルヘルスケアについて、それらセミナー開催などの検討。また各種学生相談のための質及び空間について検討。 3. 学内巡回 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込み、ロッカーの使用など）について指導や巡回。不審者の対処法などを検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討。 マナーウォークやドレスコードイベントの全学的取り組みの検討。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 男子学生への特別な支援について、特に大きな問題点は浮上していない。ただし今後学生の上級生化に対し、飲酒や喫煙、風紀の問題が懸念されるので、注意深く観察。また少人数制担任のあり方についても未だ結論が出ず、引き続き検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 教員と学生が気楽に話し合えるようロビー階相談室のレイアウト変更、親しみやすい空間を提供。学生の支援をクラスや学年間で行いやすいよう「まとめ役」を置くことを提案。「学生支援のマニュアル」を改訂し、新学期開始時に全教職員に配布予定。 3. 学内巡回 徹底的な巡回と美化の呼びかけにより、例年以上に学内美化（ゴミ、吸殻、ロッカー使用）が行われた。不審者については、防災センターもしくは総務化への即時通報を全学で徹底。今後とも継続的な学生のマナーと美化、不審者の対応に対する呼びかけを検討。 4. 各種行事内容の見直し 今年度マナーウォークは議題として取り上げておらず、そのかわり球技祭のありかたや種目変更などが大きな議題となった。結果種目変更は行わず、また時間短縮のため、全ての競技を時間制とし、開会式を単純化、さらに参考競技としてフットサルを検討。 ドレスコードイベントを全学的に行い大成功に終わった。次回の方針も決定した。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 ひきつづき男子学生が増加する中、その支援や対応のしかたなど、浮上する可能性のある諸問題。また初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上や啓発。少人数担任制のあり方について引き続き検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 初年次生の具体的な支援活動及び継続的なメンタルヘルスケアについて。 3. 学内巡回 学内におけるマナー指導や巡回。不審者の対処法などを検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討。 【共】

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年4月23日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 学生会リーダーズトレーニングについて 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他（球技祭／文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)／国際交流センター運営委員選出)
平成25年5月28日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 新入留学生懇談会について 4. 「学生支援のマニュアル」改訂について 5. 学生相談室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 8. その他（文化学園大学・文化学園大学短期大学部 外国人学生・外国人留学生規程(改定案)／学生会リーダーズトレーニング／けやき祭)
平成25年6月25日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 健康診断結果報告 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 6. その他(文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金／小平キャンパスのチューター活動／私費外国人留学生授業料減免／国際交流センター運営委員会報告)
平成25年8月2日	1. 新入留学生懇談会結果報告 2. 私費外国人留学生授業料減免について 3. 学生相談室報告 4. 第16回学生生活調査結果報告書について 5. 総合学生生活委員会報告 6. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 7. その他(学生支援のマニュアル)
平成25年9月26日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 2. 「学生支援のマニュアル」改訂について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 6. その他（球技祭／学生生活調査結果報告／小平キャンパスのキャンパスアメニティ）
平成25年10月29日	1. 学内巡回指導について 2. 留学生(上級生)懇談会について 3. 「学生支援のマニュアル」の校正について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 7. その他（小平キャンパスのチューター活動・キャンパスアメニティ／球技祭／喫煙マナー）
平成25年11月26日	1. クラブリーダーズトレーニングについて 2. 学生相談室報告 3. 総合学生生活委員会報告 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 5. その他（緑道・学内巡回指導／小平キャンパスのキャンパスアメニティ／文化祭）
平成25年12月17日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 留学生(上級生対象)懇談会結果報告 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 6. その他（ソーシャルメディアガイドライン／小平キャンパスのキャンパスアメニティ／国費外国人留学生の選考／ドレスコード）
平成26年1月21日	1. 留学生進路等相談会結果報告(小平キャンパス) 2. 学生相談室報告 3. 総合学生生活委員会報告 4. 文化学園大学/文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 5. その他（ドレスコード／球技祭／学生食堂の外部利用）
平成26年2月26日	1. クラブリーダーズトレーニング報告 2. 平成26年度文部科学省外国人留学生学習奨励費応募者面接について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について 6. その他（ドレスコード／平成25年度自己点検・評価報告書）
平成26年3月14日	1. 申し送り事項について 2. 学生相談室報告 3. 総合学生生活委員会報告 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書(学生支援)について

■検討組織名：研究委員会

報告者：塚本 和子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 教員の研究成果の発表の場としての「第 28 回 文化学園大学・教員研究作品展」(以下「第 28 回教員研究作品展」)の継続的かつ安定的な開催のための検討 (1) 平成25年度の場所と日程の検討、開催規模の維持に向けた出展作品数確保と広報活動の検討 (2) 「文化学園大学教員研究作品展作品集第 13 集」(以下「教員研究作品展作品集第 13 集」)作成と配布先及び配布方法についての検討 2. 研究室図書重点配分図書費の申請対象図書の条件による有意義な配分についての検討 3. 公開講座の継続的かつ一層効果的な実施のための検討 (1) 服飾博物館展示と文化ファッション研究機構所属研究員の活用を視野に入れた講演者の選定 (2) 安定的な参加者数と参加者満足が得られ、かつ本学の研究・教育状況を広く社会に提示するための講演テーマ、実施方法の検討 (3) 参加者の満足が得られるような服飾博物館見学時間の設定と入館から退館までの案内の工夫 (4) 一般参加者数の安定化と拡大のため、学内他行事と連携した広報活動の継続と掲載料無料の複数の広告媒体の新規開拓、及び本学園内参加者数増加を促す広報活動の検討。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「第28回 教員研究作品展」を開催、学内外からの来場者に本学教員の研究成果の発表機会を提供 (1) 開催場所は遠藤記念館ギャラリーで会期を 1 日増やし、4 日間の入場者は 1,269 人で前年度より25人増であった。出展作品数確保は、前年の出展者で未登録者に対して確認。広報活動は、区報や区のウェブサイトを活用し、また、リボジトリ登録案内を継続。 (2) 「教員研究作品展作品集第 13 集」を作成し、関係各所に配布した。 2. 研究室図書予算及び重点配分図書予算と申請内容を検討し適切な配分を行った。重点配分購入予算では選定基準との整合性に鑑み、図書館蔵書との重複を避け選定した。 3. 「平成25年度秋期・春期特別公開講座」を実施。参加人数は秋期 194 人、春期 260 人。また両講座とも終了後に博物館見学を実施。 (1) 秋期は服飾博物館の学園創立90周年特別展図録を作成された本学教授植木淑子氏、春期は元本学教員の東京家政大学教授能澤慧子氏に依頼したことで、本学の教育内容と関連の深い内容となった。 (2) 2 回とも本学の柱である服装学に直接関わり特に秋期は文化学園服飾博物館の学園創立90周年特別展の内容とも連動、「他では聞けないテーマとレベルである」とアンケートで高い評価を受けた。 (3) 博物館の見学は、入館証を継続使用、担当者との密な打ち合わせの結果、混乱なく実施。 (4) 今年度も同日開催イベントのアナウンス、本学の他イベントのチラシ配布を継続、大学の効果的な広報活動の一端を担った。新規の広報活動については渋谷区報・広報サイト、服飾関連の教育研究機関・博物館等へ実施した。それらは、アンケートより有効であったことを確認。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 教員の研究成果発表の場としての教員研究作品展の継続的かつ安定的な開催のための検討 2. 研究室図書・重点配分図書費の申請対象図書の条件による有意義な配分についての検討 3. 公開講座の継続的かつ一層効果的な実施のための検討 (1) 服飾博物館展示と文化ファッション研究機構所属研究員の活用を視野に入れた講演者の選定と、参加者のより深い満足が得られるような服飾博物館との連携のあり方の検討 (2) 安定的な参加者数と参加者満足が得られ、かつ本学の研究・教育状況を広く社会に提示するための講演テーマ、実施方法の検討 (3) 参加者数の安定化と拡大のため、掲載料無料の複数の広告媒体の新規開拓、本学園内参加者数増加を促す広報活動、及び講演テーマ関連団体への周知方法の検討 (4) 本学の教育及び研究の一般への周知という目的と、また、多様な本学主催講演行事の存在の中での公開講座の位置付けの確認 【共】

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 3 日	1. 「平成24年度春期特別公開講座」アンケート結果及び秋・春期特別公開講座経費決算報告 2. 「平成25年度秋期特別公開講座」日程の検討 3. 「第28回教員研究作品展」会場当番の決定及び業務進捗状況の確認
平成25年 5 月 14 日	1. 平成25年度研究室図書費の検討と教授会審議案の作成(平成25年 6 月11日教授会承認) 2. 平成25年度研究室図書費の購入申請締切及び図書係会開催日程・場所の検討 3. 「第28回教員研究作品展」の反省点及び次年度以降への課題の報告 4. 「平成25年度秋期特別公開講座」の講演者選定方針の決定 5. 学外共同研究申請(1 件)の審議(平成 25 年 6 月 11 日教授会承認)
平成25年 6 月 25 日	1. 平成25年度図書係会開催報告及び注意事項の確認 2. 「教員研究作品展作品集第 13 集」作成へ向けた作業進捗状況の報告 3. 「平成25年度秋期特別公開講座」講演者候補者の検討
平成25年 7 月 16 日	1. 「平成25年度秋期特別公開講座」開催日及び講演者の決定 2. 「教員研究作品展作品集第 13 集」作成へ向けた作業進捗状況の報告 3. 「第29回教員研究作品展」開催会場検討状況の報告
平成25年 9 月 17 日	1. 平成25年度研究室図書重点配分申請状況の報告 2. 「教員研究作品展作品集第 13 集」作成へ向けた作業進捗状況の報告 3. 「第29回教員研究作品展」開催会場の決定 4. 「平成25年度秋期特別公開講座」役割分担の決定 5. 平成26年度(第39回)学術研究振興資金(若手 1 件・一般 2 件)の審議 (平成 25 年 10 月 8 日教授会承認)
平成25年10月 29 日	1. 平成25年度研究室図書重点配分申請結果(案)の審議及び承認 2. 「教員研究作品展作品集第 13 集」作成へ向けた作業進捗状況の報告 3. 「平成25年度秋期特別公開講座」当日スケジュールと業務進捗状況の確認 4. 「平成25年度春期特別公開講座」開催日程の検討
平成25年 12 月 3 日	1. 「平成25年度秋期特別公開講座」アンケート結果の報告 2. 「平成25年度春期特別公開講座」開催日程、講演者及び役割分担の決定 3. 「平成26年度秋・春期特別公開講座」予算案の承認 4. 「教員研究作品展作品集第 13 集」作成へ向けた作業進捗状況の報告 5. 学外共同研究申請(1 件)の審議(平成 26 年 1 月 7 日教授会承認)
平成26年 1 月 21 日	1. 第29回教員研究作品展開催スケジュール及びポスター等デザインの決定 2. 平成25年度秋期特別公開講座アンケート結果の報告及び問題点への対応の協議 3. 平成25年度春期特別公開講座当日スケジュール・タイトル及び作業進捗状況の報告
平成26年 2 月 18 日	1. 平成 25 年度春期特別公開講座各役割作業進捗状況の最終確認 2. 第29回教員研究作品展最終登録及び目録校正スケジュールの決定 3. 教員研究作品展第 13 集リポジトリ登録及び配布・発送業務完了の報告 4. 学外共同研究申請(新規 1 件・継続 1 件)の審議(平成 26 年 2 月 20 日教授会承認)
平成26年 3 月 20 日	1. 平成25年度春期特別公開講座アンケート結果の報告 2. 第29回教員研究作品展準備進捗状況の報告 3. 『文化学園大学 文化学園短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 25 年度』報告書の確認

■検討組織名：入試対策委員会

報告者：高橋 正樹

提出日：平成 26 年 3 月 26 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 平成 25 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 4. 入試のあり方への検討 5. 新入生アンケートによる結果の検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成 25 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 進学フェスタ（オープンキャンパス）は、文化祭及び卒業研究展での特別進学フェスタを除き、両キャンパスで 11 回行われた。結果、来場者数は 3,791 人で前年度比はマイナスであった。理由として、平成 23 年度から教員による高校訪問を組織的に行ってきたが、服装系への進学を希望する高校生そのものが減少したことが考えられる（高校訪問の際の高校教員からの弁）。 公開授業は、新都心キャンパスでは 7/13、小平キャンパスでは 7/20 に行われた。結果、同日開催の進学フェスタ参加者数をみると両キャンパス合計で、前年度比はマイナスであった。考えられる主な理由は先の進学フェスタと同様であるが、別の理由として高校生を比較的長時間拘束する公開授業の形式が、「ちょっとだけ大学の様子を知りたい」という高校生に合わなくなってきていることも考えられる。 サマーオープンカレッジは、7/28・7/30・7/31・8/1 に両キャンパスにて行われた。結果、受講者数は延べ 678 人で前年度比はマイナスであった。これの主な理由も先と同様の「服装離れ」が影響していると思われる。しかしながら当日の無断キャンセルは、申込みシステムを改善したため昨年の半数程度に減少した。 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 昨年度より全学的・組織的に実施することになった。その結果、一都三県を中心に 345 校へ 129 人の教員が訪問した。前年度比 23 校の減少であった。志願者数が大きく落ち込む中、進学フェスタ等のオープンキャンパス系への参加者はそれに比して減らなかったため、広報としての効果があったと認められる。来年度も継続する。 3. 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 中長期的な学生募集戦略として、今年度から全学的・組織的に小中学生をターゲットにした体験講座（8/4）を実施した。その結果、8 講座に対し 103 人の参加があった。定員を上回る申し込みのあった講座もあり、また参加者アンケートでは概ね好評であった。よって来年度も実施する。 4. 入試のあり方への検討 指定校推薦が運用されはじめて 3 年が経過したため再検討を行った。検討のポイントは「過去の入学実績」「一都十県への拡充」「専門性のある高校（家政・芸術系等）の考慮」「大学・短大の指定校基準の区分け」等である。 5. 新入生アンケートによる結果の検討 留学生は日本人学生よりも「友人・先輩」などいわゆる「ロコミ」が進学のきっかけになっていることがわかった。ロコミによる学生募集を後押しする一環として台湾で行われた YODEX（デザイン系大学の見本市）に参加し、多くの台湾人卒業生（台湾在住）にご協力頂き、本学の広報を行った。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 平成 26 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 4. 入試のあり方への検討 5. 新入生アンケートによる結果の検討 【共】

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 4 月 16 日	1. 進学フェスタについて（4 月フェスタの確認及び学院と同日開催日の確認等） 2. 高校訪問について（訪問校及び担当者の選定等）
平成25年 5 月 28 日	1. 高校訪問について（訪問校数の決定） 2. 進学フェスタについて（5 月フェスタの報告と 6 月フェスタの確認） 3. 小中学生のための夏休み体験講座について（経過報告） 4. 平成25年度入学者対象「入学事前教育プログラム」について（実施結果の報告書確認）
平成25年 6 月 25 日	1. 進学フェスタについて（6 月フェスタの報告） 2. 平成 26 年度入学者対象「入学事前教育プログラム」について（委託業者の検討） 3. 本学への接触者の減少の要因について意見交換
平成25年 7 月 30 日	1. A0 入試 1 期について（エントリー状況の報告） 2. 進学フェスタについて（7 月フェスタの報告と 8 月フェスタの確認） 3. サマーオープンカレッジについて（申込者数の報告） 4. 小中学生のための夏休み体験講座について（申込者数の報告等） 5. 新入生アンケートについて（回収率・集計結果の報告等） 6. 平成 26 年度入学生対象「入学事前教育プログラム」について（委託業者の決定）
平成 25 年 9 月 24 日	1. A0 入試 1 期について（出願状況の報告） 2. 進学フェスタについて（4～9 月までの報告及び来年度に向けての検討） 3. 小中学生のための夏休み体験講座について（終了の報告及び来年度に向けての検討） 4. 新入生アンケートについて（各学科による考察の報告） 5. 高校訪問について（結果報告） 6. 平成26年度入学者対象「入学事前教育プログラム」について
平成25年 10 月 22 日	1. 推薦入試について（出願状況の報告） 2. 高校訪問について（各学科による考察の報告、来年度に向けての検討） 3. 平成26年度進学フェスタ・サマーオープンカレッジ・小中学生のための夏休み体験講座の日程について 4. 平成26年度進学フェスタの展示パネル作成について 5. 出張授業について（他大学の取組み状況の報告）
平成25年11月 26 日	1. A0 入試 2 期について（エントリー結果の報告） 2. 留学生入試 1 期について（出願状況の報告） 3. 平成26年度高校訪問について（訪問校数と選定方法等） 4. 平成26年度進学フェスタについて（日程の決定、展示パネルの作成）
平成25年12月 17 日	1. 留学生入試 1 期について（出願者数及び試験実施報告） 2. 平成26年度進学フェスタについて（企画内容の検討） 3. 平成26年度サマーオープンカレッジについて（日程の決定、パンフレットの原稿依頼） 4. 平成26年度高校訪問について（訪問校数と担当者の職域の検討） 5. 平成26年度新入生アンケートについて（設問内容の検討）
平成26年 1 月 28 日	1. 平成 26 年度入試状況について（報告） 2. 平成26年度高校訪問について（訪問校数と担当者の職域の決定） 3. 平成26年度サマーオープンカレッジについて 4. 平成26年度小中学生のための夏休み体験講座について（実施協力の依頼）
平成26年 2 月 25 日	1. 平成26年度進学フェスタについて（企画内容の検討） 2. 平成26年度高校訪問について（マニュアル等） 3. 平成26年度入学生対象「入学事前教育プログラム」について（申込み結果の報告） 4. 平成26年度サマーオープンカレッジについて（開講講座数の決定） 5. 平成27年度指定校について 6. 平成27年度入試日程と試験種目について
平成26年 3 月 20 日	1. 平成 26 年度入試結果について 2. 平成 26 年度進学フェスタについて（企画内容の検討） 3. 平成 26 年度高校訪問について（マニュアル等） 4. 次年度への申し送り事項について

■検討組織名：就職委員会

報告者：松田 祐之

提出日：平成 26 年 3 月 13 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 服装学部、造形学部では 2 年生に向けたインターンシップ履修に関する告知を徹底し、低学年からの意識向上を促す具体案を探る。また、3 年生の海外及び自己開拓インターンシップ実施については学生の動向把握を確実にするための基準を検討する。さらに、公開報告会・企業担当者出席等の見直しを行う。現代文化学部では海外インターンシップを検討中。【大】 2. キャリア支援について 担当教員と連携し、就職活動への積極的な取り組みを促す方策について検討する。さらに、男子学生の就職意識について情報収集につとめ、具体的な支援の検討を始める。【共】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 企業の充実と参加学生増への内容及び実施時期を検討し特色あるプログラム展開を行う。【短】 4. 就職支援について 活動時期に合わせた就職講座内容についての確認と、夏季・春季休暇中に実施の筆記試験対策講座の出席率低下について、低学年からの必要性を検討する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 服装学部は、インターンシップ履修の内容をキャリアデザインの中に組み込んだ。3 年生海外インターンシップ試行実施は、香港で 1 名研修を行った。出身国により許可受諾に日数を要することが分った。公開報告会は 1, 2 年生の参加が前年より増であった。造形学部は、公開報告会の開催方法を見直し、企業担当者のコメントを預かり発表学生数も増やした。低学年の学生には G メールで周知し履修や公開報告会参加を促した。また、自己開拓インターンシップに基準を設けた。現代文化学部は海外インターンシップを実施し、概ね成功であった。【大】 2. キャリア支援について 担当教員と連携しアンケート調査を実施、結果を分析し次年度への足がかりとした。キャリア形成教育科目履修では、G メール及び担任・副担任より履修を促した。さらに、就職委員・事務局スタッフ・キャリアアドバイザーが連携し個別相談の充実を図った。【共】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 充実した内容で企業見学ができ、学生の社会に出て働く意欲を高める機会となった。【短】 4. 就職支援について 活動時期に合わせた就職講座内容で概ね実施できた。基礎学力向上講座の出席率低下については、低学年からの実施を次年度から行う。【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 服装学部はインターンシップの関心度意識付けを 1, 2 年生の低学年から強化するため、報告会参加を促す具体策を担任と連携して探る。造形学部は事前教育の見直しを行う。現代文化学部は海外インターンシップ希望学生増のため、低学年への周知徹底を図る。全体的には男子学生インターンシップが初年度のため、動向に気を配り周知徹底し、多くの学生の参加を促す。【大】 2. 就職・キャリア支援について (1)就職支援 ①教職員が連携し、学生の積極的な取り組みを促す方策について検討する。②基礎学力向上講座の低学年からの実施に伴い、学生に周知を徹底し参加を促す。③平成 27 年度卒業生からの学生の就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴い、企業動向を確認のうえ柔軟に対応し、教職員へも周知徹底する。④男子学生の支援を強化する。 (2)キャリア支援 ①低学年からの支援について、4 月のオリエンテーション期間の一層の活用を考える。②短大生は、意識向上のため、キャリア支援担当教員と連携し具体的な支援の検討を進める。【共】

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 4月 23 日	1. 平成 25 年度就職委員会活動計画 2. 各小委員会の活動報告（造形学部／インターンシップ・クリエイティブキャリア論A・B・今後の検討事項 現代文化学部／キャリア形成教育） 3. 就職状況及び学生の就職活動状況について 4. 就職講座とキャリア形成教育科目との連携について 5. その他（就職委員会・担当窓口の認知度アップ）
平成25年 6月 5 日	1. 平成 25 年度就職委員会活動計画について 2. 各小委員会の活動報告について（服装学部・現代文化学部・短期大学部／インターンシップ 造形学部／インターンシップ・委員会や窓口の活用法・進路決定状況） 3. 就職状況及び学生の就職活動状況について 4. その他（海外インターンシップ[試行]）
平成25年 7月 2 日	1. 各小委員会の活動報告（服装学部・造形学部・現代文化学部・短期大学部／インターンシップ） 2. 就職活動状況及び学生の就職活動状況について 3. その他（海外インターンシップ[試行]）
平成25年 9月 24 日	1. 各小委員会の活動報告について（服装学部・造形学部／インターンシップ 現代文化学部／インターンシップ・就職状況・就職関連コラボレーション科目） 2. 就職状況及び学生の就職活動状況について 3. その他（採用スケジュール・複数内定者・学生の特徴・卒業生ネットワーク構築 等）
平成25年10月 22 日	1. 各小委員会の活動報告について（服装学部／インターンシップ 造形学部／インターンシップ・クリエイティブキャリア論B 現代文化学部／インターンシップ・就職講座） 2. 就職状況及び学生の就職活動状況 3. その他（学内説明会・学生状況・採用スケジュール変更）
平成25年 12月 3 日	1. 各小委員会の活動報告について（現代文化学部／就職講座スケジュール） 2. 就職状況及び学生の就職活動状況 3. その他（中小企業の探し方）
平成26年 1月 14 日	1. 各小委員会の活動報告について（造形学部／学生の就職 採用時期の後ろ倒しに伴う就職活動スケジュール 現代文化学部／進路面談・キャンパスプラン登録 短期大学部／コラボレーション科目） 2. 就職状況及び学生の就職活動状況 3. その他（就職活動繰り下げ検討委員会・学生面談・企業懇談会・自己点検評価 等）
平成26年 2月 25 日	1. 各小委員会の活動報告について（服装学部・造形学部／自己点検評価・インターンシップ 現代文化学部／自己点検評価・キャリア教育 短期大学部・コラボレーション科目） 2. 就職状況及び学生の就職活動状況 3. その他（就職・キャリア対策強化・学生の就職 採用時期の後ろ倒し・学内セミナー出席状況）

■検討組織名：研究倫理委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 研究倫理の審査結果の通知書を作成する。 2. 他大学の規程等を収集し、高齢者を対象として実験を行う際の本学のガイドラインを作成する。 3. その他「研究倫理」上の問題として検討を要すると思われる事例を収集し、対応策を「内規」もしくは「申合せ」として明文化する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. すでに作成してあったため、今後は様式に従い通知書を発行する。 2. 継続して検討・審議し、平成 26 年度中の完成を目指す。 3. 継続して検討・審議し、平成 26 年度中の完成を目指す。 【共】
次年度への 課 題 (平成 26 年度)	1. 研究倫理の観点で軽微な問題と思われる案件については、研究倫理規程に定める迅速審査の手続きを適用し、より迅速な判断を可能とするよう努める。 2. 本委員会で審査し、承認された研究倫理申請書の承認番号を作成する。 3. 研究倫理上の問題として検討を要すると思われる事例を収集し、対応策を内規、もしくは申し合わせとして明文化する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 26 年 1 月 7 日	1. 研究倫理の審査について（濱田委員長） 9 件の研究倫理申請書について審議、承認した。 2. その他 (1) 承認番号について（荒牧委員） 本委員会で審査し、承認された研究倫理申請書について、教員の研究、大学院生の研究、迅速審査か否か等わかるような番号を付すこととする。 (2) 大学院生の論文作成に関わる倫理審査について 大学院生が論文を作成するにあたり倫理審査を必要とする場合もあるので、期日を定め、夏季休暇前に計画段階での申請を求めることとする。

■検討組織名：研究費不正使用防止委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 「競争的資金（公的資金）」の不正使用が報じられることに注目し、事前に担当官公庁等に確認し、不正防止に役立てるべく方策を検討する。 2. 「教員研究費」によって購入される各種教具や書籍等の管理のあり方について、再検討することとする。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 研究費としての外部資金の導入状況を把握するとともに、不正防止のための方策を検討した。 2. 各キャンパスで、各種教具や書籍等の管理方法に異なる部分が散見されたため、統一したマニュアルを作成することとした。マニュアルは平成26年度に配布予定。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 文部科学省研究振興局からの通知（25 文科振第 620 号）を受けて、本学における公的研究費の管理・監査等の見直しが必要であるか、規程、運用等の精査をする。 2. 事業者に対する取引ルールを策定する必要があるか、検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 26 年 3 月 4 日	1. 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）の運用について文部科学省研究振興局長からの通知について説明。今後、本委員会規程等、本学として見直しが必要な部分があれば、平成 26 年度に見直しを行う。 2. 本学の競争的資金、研究費等について 学会に参加すると大いに刺激を受けるので、本学教員の更なる活発な学会参加を図る。 3. 事業者に対する各種取引ルートについて 本学として事業者に対する取引ルールを策定するかも含めて、議題 1. とあわせて平成 26 年度の課題とする。 4. 平成 26 年度より、本委員会委員に研究協力室（平成 25 年 8 月開設）室長を加えることとする。

■検討組織名：ハラスメント防止委員会

報告者：永野 順子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 学生生活調査におけるハラスメントのアンケート結果の内容を精査し、対応の検討を行う。 2. FD 活動の一環として、過去のハラスメント事例の対応の事項を情報開示するよう短大部服装学科会議から要請されており、どの程度の開示が妥当であるかを検討する。 3. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。【共】
取組の結果と 点検・評価	取り組みの結果 1. 学生生活調査に現れたハラスメント関連のアンケート結果から、防止活動への認知度は上昇傾向であったが、ハラスメントの被害はセクシュアル・ハラスメントが大半であった。被害を受けているという回答の%が高い学科の主任教授へ委員経由で結果を報告することとなった。 2. 男子学生への対応方法の参考とするため、本委員会の扱う問題とその対応について短期大学部より情報開示が求められたが、守秘義務のために開示には制約が大きいことを委員経由で報告することとなった。 3. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかるために、「2012 年～2013 年上半期 大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書を各研究室に配布した。 教職員に対しハラスメント防止の意識啓発へ一層の協力を求めた。 4. 平成 25 年度に本委員会が受けたハラスメント事案は 2 件であった。 点検評価 平成 25 年度に課題として設定した事項をほぼ達成することが出来た。 また、学生生活調査のアンケート結果から、セクシュアル・ハラスメントが大半を占めるという実態が明確になった。更に本年度に受けた事案がいずれもセクシュアル・ハラスメントであったことから、共学化 2 年目の本学の課題が明確となった。【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 学生生活調査におけるハラスメントのアンケート結果をふまえて、大半を占めるセクシュアル・ハラスメント事案への対応の検討を行う。 2. ハラスメント対応のフローチャートが現実と合わなくなっているため、改定を検討する。 3. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。【共】

■検討組織名：ハラスメント防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 6 月 25 日	1. ハラスメント事案 1301 について 報告と今後の対応について 2. 短期大学部より申し入れのあった、「本委員会の対応に関する報告」について
平成25年 7 月 23 日	1. 「2012 年～2013 年上半期 大学関係ハラスメント事例と処分」の研究室配布について 2. ハラスメント相談員研修について 3. 平成 25 年度委員会活動について
平成25年 9 月 5 日	ハラスメント相談員研修 「本学のハラスメント防止活動」 委員長
平成25年10月 22 日	1. 「2013 年学生生活調査」のハラスメントにかかわる項目について 2. ハラスメント事案 1302 について ハラスメント審議委員会への審議依頼について

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

報告者：大熊 志津江

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 定員について 平成24年度入学生より 1 級課程のみとなるため、希望者増を想定し、定員について検討を行う。 2. テキスタイルアドバイザー(以下：TA)実習について 現行、実習先によっては 7～8 人の受け入れをお願いしている所もあり、履修希望者の増加により、企業開拓を行う。 3. カリキュラムについて (1) 開講推奨科目の対応と選択科目の増設についての検討を行う。 (2) 平成25年度から「アパレル設計・生産論」と「アパレル生産実習Ⅰ」が開講されるが、1 級課程履修希望者の増加に伴う授業開講における諸問題の検討を行う。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 定員について 平成25年度 2 年生がコース希望願いを提出した際、1 級課程履修希望者は70人であった。定員は 30 人であり定員を超えた場合は、3 年次までの衣料管理士課程関連科目の単位取得及び GPA を参考に資格取得者を決定している。平成 26 年度 3 年次の指定科目の履修状況を見つつ定員について継続審議していく。 2. TA 実習について 平成24年度に引き続き、1 級課程履修希望者の増加により企業開拓として、文化学園ファッションリソースセンターと穂高(株)ポニークリーニングに交渉を行い、実習受け入れの了解を得た。結果、実習先が 2 件増加し計18件となり、学生を均等に配置することが出来た。 3. カリキュラムについて (1) 日本衣料管理協会指定の開講推奨科目である「アパレル生産論」の新設について検討を行った。現在大学教員に適任者がいないことから、外部での担当者の検討を行っている。 (2) 1 級課程必修科目の「アパレル設計・生産論」と「アパレル生産実習Ⅰ」は、専門教育科目の選択科目から機能デザインコースのコース別専門科目へと変更した。平成26年度 3 年次より全コースから 1 級の資格取得が可能である事と履修希望者の増加により、時間割、担当者、教室等の確認、調整が必要であり、継続審議中である。 また、協会の指定科目名に合わせて科目名を「アパレル設計・生産論」を「アパレル設計論」に、「アパレル生産実習Ⅰ」を「アパレル設計実習」に変更した。これに準じ、「アパレル生産実習Ⅱ」を「アパレル生産実習」に変更し、年次も 3 年次から比較的時間帯に余裕がある 4 年次に変更する事で学生、担当教員、実習教室の空き時間の調整が可能となった。更に、「マーケティング論」と「テキスタイルアドバイザー実習」は、テキスタイル企画コースのコース別専門科目であったが、全コースで 1 級資格が取得可能となり、他コースの学生が履修しやすいよう共通の専門教育科目の選択科目に変更した。(平成25年 11 月 12 日教授会承認) 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 定員について 平成26年度 3 年次より全コースで 1 級資格が取得可能となるため、履修希望者を想定し定員について、更なる検討が必要である。 2. カリキュラムについて (1) 協会の認定科目の増設と開講推奨科目の新設についての検討を行う。 (2) 「消費生活論」の新規担当者の手配について検討を行う。 3. 委員構成について 平成27年度より 1 級課程のみとなるため、委員構成についての検討を行う。 【大】

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 5 月 16 日	1. 役割分担とスケジュールの確認 2. 実習関連について 3. カリキュラムの検討
平成25年 6 月 10 日	1. 実習関連について (1)実習先と実習生の確認 (2)事前教育案の検討 2. 時間割の検討 3. 大学正会員申請書類の確認 4. 「アパレル生産実習Ⅱ」科目名及び年次変更の検討、「マーケティング論」「テキスタイルアドバイザー実習」種別変更の検討(平成 25 年 11 月 12 日教授会承認)
平成25年 7 月 10 日	1. 後期授業日程及び内容の確認 2. 実習関連について (1)事前教育について (2)実習先挨拶担当者決め
平成25年 10 月 3 日	1. 実習先訪問後の報告 2. 大学正会員申請の結果報告
平成26年 3 月 10 日	1. 消費生活論担当者について 2. 委員構成について

開催年月日	学生指導等の記録
平成 25 年 7 月 2 日 平成25年 7 月 16 日 平成25年 7 月 23 日 平成25年 7 月 29 日 ～9 月 17 日 平成25年 9 月 26 日 平成26年 2 月 19 日 平成 26 年 3 月 6 日	【実習関連(1 級)】 第 1 回 テキスタイルアドバイザー実習 事前教育：外部講師による講演 第 2 回 テキスタイルアドバイザー実習 事前教育：外部講師による講演 第 3 回 テキスタイルアドバイザー実習 事前教育：委員による説明 TA 実習期間(うち 5 日間実習)1 級 4 年生, 3 年生 27 人が 16 実習先へ実習 期間中、実習先へ挨拶 テキスタイルアドバイザー実習報告会 14：00～17：00 2 月、3 月実習のための事前教育(実習期間 2 月 24 日～28 日、3 月 10～14 日) オンワード樫山の実習説明会へ参加
平成25年 10 月 3 日 平成25年10月 10 日 平成25年10月 17 日 平成25年10月 24 日 平成25年 11 月 7 日 平成25年11月 14 日 平成25年11月 21 日 平成25年11月 28 日 平成25年 12 月 5 日 平成25年12月 12 日 平成25年12月 19 日 平成 26 年 1 月 9 日	【資格認定試験の対策授業(1, 2 級 4 年生対象)】 ① オリエンテーション ② 「論文」試験の要点解説 ③ 「論文」個別指導(1 級)、「論文」模擬試験(2 級) ④ 「論文」個別指導 ⑤ 「消費科学Ⅰ」外部講師による試験関連講義(1 級) 「消費科学Ⅱ」委員による試験関連講義(2 級) ⑥ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」模擬試験 ⑦ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑧ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑨ 「論文」本試験 ⑩ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑪ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」本試験 ⑫ 衣料管理士資格取得に関する手続き等の説明
平成25年 12 月 4 日 平成25年12月 16 日 平成 26 年 1 月 8 日 平成26年 1 月 10 日	「衣料の使用実態調査」の説明会(2 級 3 年生) 「衣料の使用実態調査」の説明会(1 級 3 年生) 「衣料の使用実態調査」の回収、点検(2 級 3 年生) 「衣料の使用実態調査」の回収、点検(1 級 3 年生)

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 2. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策（キャリアアップ資格講座）の継続 3. 建築・インテリア学科カリキュラム「建築士受験資格」の更新申請 4. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の認定取り下げ 5. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 例年通り、在學生についてはオリエンテーション時に、卒業年次生については 3 月卒業時に建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について調査した。また卒業生の建築士資格取得について、外部団体の協力を得て平成 24 年度卒業生の資格取得状況を把握したが、それ以前の卒業生については卒業生に直接問い合わせる方法を検討し、平成 26 年 4 月に発行される紫友会報に案内を同封することとした。調査結果は学科会議において報告しているが、今後の調査データの活用などについては、次年度の継続課題とする。 2. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策（キャリアアップ資格講座）の継続 平成 24 年度よりインテリアコーディネーター講座のみ学部共通経費により実施しているが、平成 25 年度はその他 3 講座（インテリアプランナー、マンションリフォームマネジャー、キッチンスペシャリスト）についてコラボレーション科目として実施した。また福祉住環境コーディネーター講座は課外授業として実施した。コラボレーション科目としたことで受験資格のない学生が受講した講座もあったため一部実施方法を見直し、次年度以降も継続することとなった。また卒業生が参加可能な講座は、資格取得状況の調査と同時に案内することとした。 3. 建築・インテリア学科カリキュラム「建築士受験資格」の更新申請 平成 22 年入学者からの指定科目の確認を完了した課程について 4 年ごとの更新申請が必要となり内容を検討したが、平成 24 年度に新カリキュラムの認定を受けたばかりのため平成 26 年度入学者用の開講科目は変更なしで更新申請を行った。しかし検討の過程でシラバス内容及び指定科目の見直しについて要望がでたため、次年度の課題とすることとした。 4. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の認定取り下げについて 大学院のカリキュラム変更にともない認定を取り下げることとなったが、更新申請をしないことで取り下げとなるとの手続きを確認し、更新申請を行わない旨を文書で届け出た。 5. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討 今年度は十分に検討できなかったため、次年度の課題とする。【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 2. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策の継続 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びコース名称の変更にともなう「インテリアプランナー」登録資格における履修課程の認定申請 4. 建築・インテリア学科カリキュラム「建築士受験資格」の申請科目及びシラバスの見直し 5. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討【大】

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 7 月 2 日	1. 今年度の課題（継続課題・新規課題）と役割分担の確認 2. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の認定取り下げについて 大学院からのカリキュラム変更について報告と申請方法を確認した。 3. 卒業生・在校生の受験及び資格取得調査について 平成 24 年度調査結果を報告した。 4. 卒業生・在校生の資格取得支援対応策について 資格取得支援講座の実施内容及び受講状況を確認した。 5. 建築士課程の履修者確認作業について
平成25年 7 月 23 日	三役打ち合わせ 1. 建築・インテリア学科「建築士受験資格」の更新申請について 内容の確認と変更なしの方向を確認した。
平成25年11月 19 日	学科会議での報告・検討 1. 「建築士受験資格」の更新申請について 申請内容の確認と今後新カリキュラム進行に伴う見直しが必要かどうかを検討した。 2. 平成 26 年度の資格取得支援講座の実施方法について 実施内容と各講座担当者を確認した。
平成25年12月 17 日	1. 平成 25 年度入学生（新カリキュラム）における各コースの卒業要件と建築士受験資格取得との対応関係について 現状を学科会議で報告し、見直しの必要性について確認した。 2. 卒業生・在校生の資格取得支援対応策について 卒業生へ資格取得支援講座を告知するため、紫友会報に案内を同封するとともに、資格取得状況について情報提供を依頼することになった。

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム A (アメリカ文化研修)は、多くの学生が参加するように積極的な勧誘を続けるとともに、さらに魅力ある内容を検討していく必要がある。 (2) プログラム C (ヨーロッパ文化研修)については、人数の確保とともに、引き続きコース編成、内容等について検討する必要がある。 (3) プログラム E (日本文化研修)、プログラム F (北海道研修)の 2 つの国内文化研修については、今後も内容の充実等を進めていく必要がある。 (4) プログラム D (アジア文化研修)は現在開講されていないが、今後内容を含め引き続き検討していく。 (5) 全プログラムに共通して、通常授業の出席状況や研修の説明会等への参加状況等、平素の取組み態度を加味した研修の参加条件の規程化の検討が必要である。 2. 海外留学 (1) 引き続き、学生に対して積極的な働きかけを行い、継続的にシモンズ大学への留学生を確保する必要がある。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム A は、昨年度に引き続き、学生の参加態度が非常によかった。事前授業等における学生への指導の効果の現われと考えられる。なお、今後は、国際文化・観光学科は専門教育科目として、他学科においてはコラボレーション科目として履修されることになる。 (2) プログラム C については、人数の確保とともに、引き続きコース編成、内容等について検討する必要がある。なお、今後は、国際ファッション文化学科では専門教育科目として、それ以外の 2 学科では共通選択科目として履修されることになる。 (3) プログラム E と F については、事前授業を丁寧に行い、内容の充実に努めた。今後は、国際文化・観光学科では専門教育科目として、それ以外の 2 学科では共通選択科目として履修されることになる。人数の確保は引き続き大きな課題である。 (4) プログラム D については継続して検討する。 (5) 各プログラムにおける事前授業等で、円滑に研修が行われるよう指導がなされた。 2. 海外留学 (1) シモンズ大学への留学希望者は確保されたが、残念ながら先方の大学の都合で留学が実施できなかった。 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 文化・語学研修旅行 (1) 平成26年度からは、各学科の学習内容に対応して履修のあり方が変わる。これまで以上に学科の特性に対応した研修を模索していく必要がある。 (2) 効果的かつ円滑な研修実施に向けて、引き続き、事前教育の充実に努める必要がある。 (3) 参加学生確保の観点からも、より魅力的な研修内容、より参加しやすい研修費用について検討を続ける必要がある。 2. 海外留学(交換留学のあり方)の変更を受け、学生の留学希望にどのように応えていくのか、再検討を行っていく必要がある。 【大】

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年5月14日	1. シモンズ大学交換留学について確認 2. 各プログラムの履修状況とそれへの対応確認 3. 平成26年度に向けての各プログラムの点検・検討 (1) 各学科の教育内容との兼ね合いから各研究室で見直しを行うことを確認
平成25年6月11日	1. シモンズ大学交換留学に関して 2. 各プログラムの履修状況とそれへの対応 3. 平成26年度に向けての各プログラムの点検・検討 (1) 応用健康心理学科:プログラムA～Fを専門科目から削除 (2) 国際文化・観光学科:現状維持(名称は変更) (3) 国際ファッション文化学科:プログラムCのみ専門科目に残す(名称は変更)
平成25年11月12日	1. 文化学園大学留学規程による語学研修を中心としたフランスへの留学希望に関して報告と検討
平成25年11月26日	1. 平成26年度のプログラムの担当教員について確認 2. 教学課の担当者について確認 3. 履修方法(平成26年度入学生)について確認
平成25年12月17日	1. 文化学園大学留学規程を使用した留学に関して (1) 審議の上、留学規程を使用した留学を許可(平成26年1月7日教授会承認) 2. プログラムF(留学生を対象とした研修)に関して (1) 履修の在り方と担当者を確認

■検討組織名：紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」

報告者：糸林 誉史

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	- 査読制度の質的向上 投稿者及び査読者から寄せられた査読制度への意見を委員会で十分に検討し、特に複数の提案のあった査読者を学内より 1 名から複数へとすることで、査読制度の円滑化とともに質的向上を図り、査読制度をさらに定着していく必要がある。 - 回答書などの扱い 「回答書」などの査読における投稿者と査読者とのやりとりの書式や方法などの見直しをすすめる、投稿者と査読者間のフィードバックがより円滑になる方式をさらに検討する必要がある。 - 制作・表現系統の投稿論文について 「査読要項」のなかでガイドラインを見直していくことにより、「実践研究」などへも対応した「査読要項」の見直しをする必要がある。 【共】
取組の結果と 点検・評価	(1) 紀要「服装学・造形学研究」第 43 集より、「研究論文」に対する査読制度を導入した。本年度で 3 年が経過し、制度が定着してきた。第 45 集では、投稿者及び査読者から寄せられた意見を委員会で検討し、査読者を 2 名に増員した。 (2) 平成 26 年 2 月に投稿者及び査読者について、自由回答で査読制度への意見を求めた。査読者を 2 名にしたことに対して肯定的な意見が多かった。 「回答書」のやり取りを考慮して編集スケジュールを見直し、査読者の審査期間を十分に確保するとともに、投稿者が原稿を修正する期間も確保できた。結果として投稿者及び査読者とも有益なフィードバックを得ることができた。 - 査読者向けの「査読要項」のなかで示した 5 項目のガイドラインに加えて、「新規性」を追加して 6 項目とした。ガイドラインの項目の追加については、制作・表現系統の投稿論文の構成や要件に関して学会ごとに様々であり、「実践研究」なども含めたガイドラインに関して継続して関連する学会への情報収集、意見の交換を進めている。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	- 査読制度の質的向上 投稿者及び査読者から寄せられた査読制度への意見を委員会で十分に検討し、査読者の視点を複数とすることで評価のバランスをとり、また編集スケジュールや手順の見直しによる査読制度の円滑化とともに、査読制度の質的向上を図っていく必要がある。 - 研究ノートの実質化 研究論文については査読制度が定着したが、従来の研究ノートについては研究論文との位置づけの検討がまだ十分ではない。制作・表現系統の制作実践や書評、調査・実験報告などを含めた研究ノート充実化によって、論文誌全体の質及び投稿数の増加を図りたい。 - 制作・表現系統の投稿論文について 制作・表現系統の制作実践を論文としてどう評価するかについて、継続して検討を進め、「査読要項」のガイドラインを見直していくことにより、「実践研究」などへも対応した「査読要項」に整えていく必要がある。 【共】

■検討組織名：紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 5 月 21 日	1. 紀要第 45 集 編集スケジュールの確認 2. 査読者数の変更に関する検討
平成 25 年 6 月 18 日	1. 編集スケジュールの修正・確認 2. 登録案内書類・配信方法の確認 3. 執筆要項・査読ガイドラインの検討
平成 25 年 7 月 16 日	1. 登録者数の確定・追加登録の検討 2. 査読者候補の選定・担当委員割り振り 3. 原稿提出要領等の確認 4. 査読ガイドラインの検討
平成 25 年 9 月 10 日	1. 登録者・査読者の確認 2. 編集スケジュール・査読依頼要領についての確認 3. 査読の匿名性・ガイドラインについての検討
平成 25 年 9 月 24 日	1. 研究論文原稿の受取り 2. 査読者への原稿渡し・結果受取りの要領確認 3. 配付数調査の実施要領確認
平成25年 10 月 15 日	1. 査読結果の確認 2. 投稿者への査読結果通知要領・回答書作成要領の確認 3. 配付数調査結果の確認及び印刷部数の決定
平成25年 11 月 12 日	1. 研究論文修正原稿・回答書・研究ノート原稿の受取り 2. 査読者への修正原稿渡し・結果受取りの要領確認 3. ネイティブチェックの実施方法確認 4. 印刷業者入札
平成25年 11 月 26 日	1. 研究論文の修正後結果の確認 2. 投稿者への結果通知要領の確認 3. 印刷業者入札結果の確認
平成 25 年 12 月 3 日	1. 印刷業者への入稿 2. 初校の受取り・配付方法の確認 3. 査読者への結果通知要領の確認 4. 電子化及びインターネット等公開許諾書の配付・回収方法の確認
平成 26 年 1 月 14 日	1. 印刷業者への初校戻し・電子化及びインターネット等公開許諾書の回収 2. 再校の受取り・配付方法の確認 3. 投稿者・査読者向けアンケートの実施方法の確認
平成 26 年 2 月 4 日	1. 印刷業者への再校戻し 2. 最終校の受取り・戻しについての確認 3. 投稿者・査読者向けアンケートの実施方法の確認 4. 次年度に向けた検討
平成 26 年 3 月 6 日	1. 紀要第 45 集の納品・配付作業 2. 次年度申し送り事項、「自己点検・評価報告書」に向けた検討

■検討組織名：紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」

報告者：中沢 志保

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 紀要の更なる質的向上のための工夫が必要である。大学の紀要には、その大学の研究水準が明確に映し出されるので、その質的向上は常に求められるべきものであろう。 2. 編集委員の役割分担に関して改善が必要である。編集作業の全過程を見直し、支障のない範囲で効果的な役割分担の検討が求められる。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 紀要の更なる質的向上に関して (1) 査読に関して、本委員会の委員のほかに、該当論文の専門領域に近い協力者（1 名）を得ることができた。協力者は、委員会と十分な連絡を取りつつ、綿密な査読作業に従事してくれた。その結果、紀要の質的向上に一定の効果が認められた。 (2) 「研究ノート」として提出された研究を、「論文」として掲載した方が良いのではないかという提案が査読者から出され、委員会です承された。その結果、紀要の質的向上に効果が認められた。 2. 編集委員の役割分担の改善に関して 特定の委員に過剰な事務作業が集中しがちであったが、年間スケジュールの作成と調整並びに最終校正作業における印刷業者との連絡などの面で当該委員の分担が軽減された。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 紀要の更なる質的向上のための工夫が引き続き必要である。大学の紀要には、その大学の研究水準が明確に映し出されるので、その質的向上は常に求められるべきものであろう。 2. 編集委員の役割分担に関して、更なる改善が必要である。平成 25 年度においては、年間スケジュールの作成と調整並びに最終校正作業における印刷業者との連絡、などの面で改善がみられたが、平成 26 年度においては、編集作業全体の過程を見直したうえでの改善が求められる。 【共】

■検討組織名：紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 6 月 19 日	1. 予備登録の集計と検討 2. 「原稿の提出について」(執筆要領)の作成
平成25年 10 月 2 日	1. 本登録(投稿論文)の確認 2. 第一査読者の選定 3. 印刷業者の選定における注意事項の確認
平成25年10月 16 日	1. 第一査読の結果報告 2. 第二査読者の選定
平成25年10月 30 日	1. 第二査読の結果報告 2. 修正が必要な論文の執筆者への提案方法について審議→委員長が面談のうえ通知 3. 印刷業者の選定 4. 「校正の手順」の作成
平成25年11月 15 日	1. 掲載論文の最終決定 2. 印刷業者への引き渡し
平成25年11月 29 日	1. 初校のチェック 2. 執筆者への初校ゲラの還付
平成25年12月 13 日	1. 校正済みの初校ゲラの印刷業者への引き渡し
平成25年12月 20 日	1. 再校のチェック 2. 再校ゲラの執筆への引き渡し
平成26年 1 月 10 日	1. 執筆者より戻された再校ゲラのチェック 2. 校正済みの再校ゲラの印刷業者への引き渡し
平成26年 1 月 20 日	1. 三校(最終校正)を編集委員でチェック 2. 印刷業者に三校を引き渡す(校了) 3. 印刷部数、抜き刷り部数、送付先、納品日の確認
平成26年 1 月 28 日	1. 修正点に関して、印刷業者への連絡(メール及びファックス)
平成 26 年 3 月 4 日	1. 「人文・社会科学研究」第 22 集に関する反省会

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

報告者：齊藤 真理子

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 平成 25 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 教育実習については、受講生における以下の状況、タイ泰日工業大学短期研修の状況などを鑑み、4 年次生 4 人に対する有効な教育実習の方向を検討する。 (1) 4 年次生（留学生 1 人を含む 4 人）の実習先の検討が必要である。 (2) 4 人のうち 3 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで時間調整が必要となる。 (3) 1 人が FIT に留学しており、帰国は 6 月ごろである。 (4) 平成 25 年度のタイ泰日工業大学短期研修は 5 月 7 日～6 月 2 日の予定である。1 人がこの時期に参画できないので、新たな実習場所の検討が必要である。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成 25 年度日本語教育実習を履修する学生の配分の検討 タイ泰日工業大学短期研修は直前になって催行されないことになり、急遽、日本語教育実習の場の検討を行った。授業見学に関しては、文化外国語専門学校、学部の日本語授業、本課程履修留学生の出身校での見学を行った。授業実習に関しては、学部留学生の中から、真面目で勉学意欲はあるが日本語能力に課題のある学生を数人選び、その学生たちを対象として実習を行うこととした。留学生と実習生の時間割の調整で、授業は実習生 1 人と留学生 1 人で行い、見学者として他の実習生と指導教員が入る形であった。 (1) 1 人が課程履修を取り消し、3 人となった。 (2) 学生の空き時間を極力利用し、5 月下旬から 7 月にかけて週に 1 回、計 9 回の実習を行うことができた。 (3) FIT に留学していた学生は 5 月末には戻ってきており、実習に間に合った。 (4) タイ泰日工業大学短期研修を利用しての実習ではなくなったので、問題とならなかった。 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 平成 26 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 教育実習については、4 年次生 6 人に対する有効な教育実習の方向を検討する。 (1) 4 年次生（留学生 3 人を含む 6 人）の実習先の検討が必要である。 (2) 6 人のうち 1 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで時間調整が必要となる。 (3) 1 人が 3 年次から本課程の履修を始めた学生である。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 中旬～下旬	1. 各委員に口頭にて今年度の履修生の状況、タイ泰日工業大学短期研修が催行されないことを確認した。
平成 25 年 6 月 4 日	1. 委員会にて、教育実習担当者から以下の項目について確認し、承認を得た。 (1) 青山国際日本語学院（卒業学生 1 人）、文化外国語専門学校（4 年次生 3 人）において授業見学を行うこと。 (2) 教育実習対象者として学部留学生の協力を得ること。 (平成 25 年 6 月 18 日合同教授会(遠隔会議)にて承認)
平成 25 年 9 月 10 日	1. 委員会にて 4 年次生 3 人が各自 3 回の実習を終了したことを確認した。
平成 26 年 3 月 1 日	1. メール連絡により、平成 25 年度修了生について確認し、承認を得た。

■検討組織名：教職課程専門委員会

報告者：福井 路可

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討 2. 教職課程辞退者を減少させるための検討 3. 教育実習履修者審査に関する検討 4. 平成 25 年度新設科目「教職実践演習」の課題における目的、内容等の確認、及び、教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用等、平成 25 年度の実施に伴う反省と平成 26 年度にむけての検討 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 基礎学力、専門学力、教職志望度に学生間に違いがあるため、個別指導の必要性が年々高まっている。教員間の情報共有を行い、入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導することが必要だが、特に 1 年次への指導については十分とは云えない。教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの更なる活用が望まれる。 2. 教職課程の履修意志の曖昧さ、教職への魅力の減退、進路変更等の理由で学年が上がるにつれて履修者が減少していく現状への対策が引続き必要である。平成 25 年度の 2 年生は進級する時点で履修者が半減し、1 年生は 2 割強の中途辞退者があった。これらについては、履修辞退理由の分析とよりの確な個々への対応と指導が必要である。 3. 教育実習履修審査対象科目と履修科目全部の単位を換算する基準値が異なり、わかりにくかった。そこで、教育実習履修審査対象科目の成績を、大学が採用している GPA 換算に準じて計算することで、教育実習履修審査対象科目だけでなく履修科目全体も確認できるようになった。 4. 平成 25 年度新設科目「教職実践演習」にむけては、教職に関する専門科目担当教員は個別学生の教職課程履修カルテを記入作成し、学生は教職課程履修ノートを記入して学習状況の自己評価、履修意志の自己確認を行っての開講であった。しかし、シラバスの内容、目的とそれらの活用方法に曖昧な部分があった点は検証の必要がある。また、予定された外部講師講演とディスカッションについても今年度は実施していなかったもので、これらの検証と、グループワークについての意思統一が課題である。 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。継続課題。 2. 教職課程辞退者を減少させるための検討。継続課題。 3. 教育実習履修者審査と教育実習校における評価との相関関係、追跡調査等に関する検討。 4. 教育実習報告書の有効的活用の検討。 5. 平成 25 年度開講「教職実践演習」の課題。目的、内容等の確認及び教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用、卒業生の会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	1. 平成25年度委員会三役について 2. 平成24年度文化学園大学服装学部教育実習報告 3. 平成 24 年度文化学園大学造形学部生活造形学科教育実習報告 4. 平成 24 年度自己点検・評価報告書の確認 5. 平成 25 年度介護等体験事前教育日程 6. 教職課程履修ガイダンスについて
平成 25 年 5 月 7 日	1. 平成 26 年度教育実習履修審査 2. 平成 25 年度教育実習日程 3. 平成 25 年度介護等体験について 4. 平成 25 年度教職課程履修者数
平成25年11月 19 日	1. 平成 25 年度「教育実習」単位認定審査 2. 平成 26 年度教育実習履修再審査 3. 平成 25 年度介護等体験報告 4. 平成 26 年度教育実習集中事前教育日程
平成 26 年 3 月 4 日	1. 平成 26 年度教育実習関連報告 2. 平成 25 年度自己点検評価報告について

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直しの継続。 2. 平成24年度以降の新課程による授業について、その学習効果の検証と最適な授業の形の検討。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. より効果的な博物館実習については継続して検討が行なわれているが、すべての学生に均質で上質な博物館実習を提供する検討は結論を見ていない。博物館の現場で実物資料に即した博物館活動を体験し、博物館業務の多様性を理解できるよう、継続して実習方式を検討していく。 2. 本年度の課題 2 については、平成24年度から始まった学芸員課程の「新課程」導入による様々な状況を検証する必要があるとの判断からであるが、10 月開催の「全国大学博物館学講座協議会・東日本部会総会」において、「テーマ：学芸員課程運営上の諸問題」として意見交換がされた内容を委員会にて報告し、今後の授業運営をどのように考えるべきかをテーマとして委員から意見を頂戴した。新課程における大きな変更点は、9 科目 19 単位全てが必修科目であり、単位数も増し、教職や司書、学芸員など、課程の科目と専門の科目との共存が困難となり、負担増を口にする学生もいた。結果履修者の減少傾向となっている。これについては以下の意見が寄せられた。 (1) 学生の負担を軽減するには、「生涯学習概論」や「博物館概論」、「博物館教育論」などを一般選択科目（教養）に組み入れ、教養科目として配置し受講しやすくする案。課程履修以外の学生が講義を受けても得るものは十分にあると考える。またこのことは、学芸員課程履修の決定に際しての事前授業としての効果もあり、課程の選択に役立つものといえる。 (2) 学生の負担を少なくするため、時間割の工夫や、集中授業なども考慮していく必用がある。新課程の完結にはあと 2 年かかるため、時間をかけて課程全体の確認をしていくこととした。 【大】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直しを引き続き行い、更に博物館業務の多様性を認識するために、実習先博物館での実習体験と並行し、より多くの博物館の見学を推進していく。 2. 平成 24 年度に開始された新課程は、平成27年度の完結（全過程の終了）までは進行中のため、新しいカリキュラムに関連する学習効果や、時間割、年次配分などについて、本委員会で報告された項目を検討していく。 【大】

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年10月24日	1. 平成 24 年度以降の新課程における授業について、その学習効果の検証と最適な授業の形を検討した。検討事項の確認と意見交換をした。
平成25年10月29日	1. 委員長提案の項目に対して委員の意見を確認し、検討を継続した。 平成 24 年に始まった新課程においては 25 年度に最初の授業が始まり、新しく導入された「博物館教育論」は 2 年次の科目として実施された。この新課程については、時間割の検討や、学生の負担増など、授業内容とは異なる検討事項も存在しているが、学習環境改善のためにも、検討されなければならないテーマである。加盟校が集まり、新しく発足をした学芸員課程を考える場面においても、様々な意見が提示されている状況があるため、本委員会においても、授業の形態や状況、時間割との関連などを議題として検討していく。
平成26年1月16日	1. 学芸員資格証明書の発行についてと、新課程の学芸員課程履修費の納入時期について、委員に意見を求めた。
平成26年1月24日	1. 従来は、学芸員課程を修了し、資格を得た者に「学芸員資格証明書」を発行していたが、本年度より、特別な証明書の発行を廃止し、学生から申請があった場合は、成績証明書とともに必要な科目は履修済みで学芸員の資格を有すとの証明書による発行方式に変更することを承認した。 2. 学芸員課程履修費について、新課程履修者の納入時期については明確に記載されていなかったため、教務部と確認し、履修要項に新たな記載をすることを確認した。 旧課程は履修の始まる 3 年次の後期の納入となっていたが、新課程では 2 年次に課程が開始されるため、2 年次納入を検討したが、学芸員課程を十分に理解してからの納入のほうが、学生のメリットとなると判断し、2 年次の基礎科目終了後、履修継続の判断ができた 3 年次期後期の納入とすることを承認した。

■検討組織名：司書課程専門委員会

報告者：瀬島 健二郎

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 平成 24 年度新入生から適用している新カリキュラム (2 年目) に計画的に移行するとともに、授業内容がより魅力あるものとなるよう取り組む。 2. 司書課程履修者が増えるよう、小平キャンパス・新都心キャンパスのどちらの学生でも履修しやすくなるように、工夫して取り組む。 3. 在学生のみならず、卒業生も含め図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 新カリキュラム (2 年目) への計画的な移行 新カリキュラム移行 2 年目で、1・2 年生が新カリキュラムの授業となり、司書資格に必要な 24 単位の半分 12 単位まで移行した。スムーズに新カリキュラムに移行しつつある。 2. 司書課程履修者の増への取組み 小平キャンパスでは 30 人 (1 年生 13 人、2 年生 7 人、3 年生 6 人、4 年生 4 人)、新都心キャンパスから 10 人、合計 40 人が年度始めの履修登録者数である。 平成 24 年度に実施した新都心キャンパス学生向け、および 3 年生から司書課程の履修開始者向けの補講は、本年度はその必要性が無く行わなかった。 3. 就職希望者への支援 4 年生の受講生に司書職員の採用情報を提供したが、採用には結びつかなかった。【大】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 平成 24 年度新入生から適用している新カリキュラム (3 年目) に計画的に移行するとともに、授業内容がより魅力あるものとなるよう取り組む。 2. 司書課程履修者が増えるよう、小平キャンパス・新都心キャンパスのどちらの学生でも履修しやすくなるように、工夫して取り組む。 3. 在学生のみならず、卒業生も含め図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 4. 現代文化学部小平キャンパスから新都心キャンパスへの移転に伴う諸課題を検討する。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 3 日	3. 司書課程 ガイダンスの内容・方法・配布資料の確認 (4 月 6 日、8 日新都心・小平両キャンパス)
平成 25 年 6 月 22 日	1. 平成 25 年度授業開始後の感想、課題を協議 2. 平成 26 年度以降の開講計画と教員体制について
平成 25 年 10 月 20 日	1. 司書課程新科目名の英訳について 2. 平成 26 年度の担当教員と時間割について
平成 25 年 12 月 20 日	1. 平成 26 年度の時間割案の検討について 2. シラバスの執筆について
平成 26 年 1 月 9 日	1. 平成 25 年度自己点検・評価報告書について 2. 平成 26 年度以降の司書課程の開講計画について
平成 26 年 3 月 15 日	1. 平成 25 年度自己点検・評価報告書について

■検討組織名：留学制度検討委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 文化学園大学（含、大学院、短期大学部）と連携を密にしている大学への留学の推進、一方で、留学生の受け入れをさらに活発化させるべく検討する。 2. 留学希望者の相談活動、留学前後の各種ケアをより精密なものにするよう検討を加える。 3. 武漢紡織大学を含めて、学生・教員の短期研修の受け入れのあり方について、各大学と再度協議し、基本原則をより明確にすることとする。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成26年度に向けて、ボーンマス美術大学（AUB）への留学 2 人を承認した。また中国武漢紡織大学との提携を検討し、平成26年 9 月末には 9 人の本学学部編入学希望者が来日予定である（日本語研修後、編入学は平成27年度となる）。 2. 国際交流センター、文化語学研修専門委員会、その他語学の教員等が、本学の留学希望者の相談を親身に受けた。結果、平成26年度から休学をして本学提携校以外への留学（フランス）へ踏み出した学生もいた。 3. 提携校からの学生、教員の短期研修について、本学の学事日程、教員の配置、必要経費、宿舎等、具体的な問題についてさらに検討することとした。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 海外提携校からの本学における短期研修等の申出への対応。 2. 各プログラムの規程と書式の調整。 3. 経済的に厳しく、留学をあきらめてしまう学生の負担を軽減する方策の検討。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年12月 17 日	1. 2014 年度特別留学プログラム面接結果について 希望者 5 人（ニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT) 3 人、AUB2 人）の最終面接の結果、FIT 希望者 2 人のうち 1 人を不許可、1 人を保留とする。→FIT と協議の結果、保留者は平成26年 3 月に許可となった。 2. 今後の検討が必要な事項について委員会から報告。

附 属 機 関

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. ホームページの改訂（英語版ページを追加し、スマートフォン・タブレット端末に対応） 2. 多様な学習支援サービスのひとつとしてのグループ学習室の提供開始（新都心） 3. 新入生対象の必修科目「スタディスキルズ」への協力（新都心） 4. 設備環境の整備（新都心：就職・資格関連コーナーの設置、小平：パソコン用電源の整備） 5. オンライン文献データベースの充実 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. ホームページの改訂（英語版ページを追加し、スマートフォン・タブレット端末に対応） ホームページに英語画面を追加すると同時に、構成と内容を見直して全面改修した。デバイスの多様化にあわせスマートフォンにも対応させた。 2. 多様な学習支援サービスのひとつとしてのグループ学習室の提供開始（新都心） 4 月からグループ学習室の提供を開始した。卒論指導やレポート作成など繰り返し利用する人もいるが、利用は多いとは言えないため今後も広報に力を入れる。 3. 新都心新入生対象の必修科目「スタディスキルズ」への協力（新都心） 全 7 回のスタディスキルズのうちの 1 回、90 分の授業を 16 クラス分担当した（2 クラス合同のため計 8 回）。継続して内容及び方法を改善していく。 4. 設備環境の整備（新都心：就職・資格関連コーナーの設置、小平：パソコン用電源の整備） 新都心には書架を増設し就職・資格・検定資料のコーナーを設け資料を充実させた。その結果貸出冊数も着実に増えている。小平には閲覧席の一部にパソコン用の電源を整備した。 5. オンライン文献データベースの充実 文化出版局雑誌アーカイブ、ブリタニカオンラインを導入した。電子ジャーナルパッケージの変更をはじめとして契約中の電子リソースを見直し、内容追加や利用条件変更などを行った。その結果ほとんどの電子リソースでアクセス数の増加がみられ利用の拡大につながった。 6. その他 (1) 文化学園リポジトリは画面改修や利用統計の改善をした。 (2) 貴重書デジタルアーカイブのサーバを交換し、洋雑誌 2 タイトル約 1 万画像を追加登載した。また OPAC の検索結果に画面から貴重書アーカイブがみられるようにリンクをはった。 (3) 貸出可能冊数を各利用者 2 冊ずつ増やした結果貸出冊数が増えた。予約図書到着通知や新着資料受入通知など個人宛のメール連絡をシステムと連携させサービスを拡大した。 (4) 文化祭に合わせてアートマガジン「ヴィジョネア」をテーマとし「ヴィジョネア」33 点と関連本 32 点を展示した。500 余人の来場者があった。（新都心） (5) IFFTI の開催に合わせて、「日本の古書に見るきもの」と題し雛形本や役者絵本、和裁関連実用書などきもの関連資料 14 点を展示した。3 日間で 227 人の来場者があった。（新都心） (6) 外部講師を呼びファッション予測情報誌「プロモスティル」「トレンドユニオン」のセミナーを開催した。主に教員を対象としたセミナーで各回 50 人近くの参加があり好評だった。（新都心） 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 電子資料収集・提供の推進（冊子から電子資料へ変更、仮想プライベートネットワーク（VPN）を導入するなど） 2. 利用環境の向上（新都心：館内無線 LAN 利用可能域の拡張、閲覧席に仕切りをつけるなど） 3. 資料の保存対策（適正配架のための書架確保・調整、書庫の環境改善、貴重書状態調査など） 【共】

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
平成25年 6 月 28 日	1. 平成 24 年度業務報告 2. 平成 25 年度業務計画・資料費予算 3. 意見交換 ほか
平成25年 12 月 4 日	1. 平成 25 年度上半期業務概況 2. 平成 26 年度業務計画案・予算案 3. 図書館開館日程案の審議（平成 26 年度 2 月 20 日教授会承認） 4. 意見交換 ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成25年 4 月 1 日	1. 平成 25 年度組織編成・業務グループ等担当 2. 各課業務分担 3. 各課報告 ほか
平成25年 5 月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 2. グループ学習室の広報対策について ほか
平成25年 6 月28日	1. 7 月からの部内人事異動 2. 各課報告 3. 業務グループ・研修報告 ほか
平成25年 9 月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 文化祭展示進捗 ほか
平成25年11月29日	1. 各課報告 2. 平成 26 年度業務計画・予算・図書館開館日程案 3. 業務グループ・研修報告 4. IFFTI 準備 5. 次年度の遅番体制 ほか
平成26年 2 月28日	1. 春季閉館中の作業 2. 図書費の予算消化状況 3. 平成 26 年度予算 4. 業務グループ・研修報告 5. H館書庫の使用に関する意見交換 ほか

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成25年 4 月17日	1. ガイダンス・スタディスキルズ 2. グループ学習室の広報 3. 就職・検定・資格書架設置 4. 図書館委員からの図書館運営に関する意見への対応 5. 研修参加者 ほか
平成25年 5 月22日	1. スタディスキルズ経過報告 2. オンラインデータベース利用講習会報告 3. 消耗図書費の使い方 4. 展覧会図録の収集 5. 図書館委員会報告内容および日程の検討 ほか
平成25年 6 月20日	1. 卒業生の著作 2. オンラインデータベーストライアル 3. 研究設備助成金の申請 ほか
平成25年 7 月17日	1. 貴重書デジタルアーカイブへのサービス機能追加 2. 障害者の雇用計画 ほか
平成25年 9 月11日	1. 太田臨一郎文庫整理の進捗 2. VPN 接続 3. 原簿の価格調査 ほか
平成25年10月 9 日	1. トレンド情報誌セミナーの日程 2. 外部書庫の除籍図書選定 3. オンラインデータベーストライアル 4. 平成 26 年度業務計画案 ほか
平成25年10月16日	1. 平成 26 年度の目標 2. 遅番交替時間の変更 3. 継続図書の中止 4. 消耗図書費の対象拡大と次年度予算 5. リポジトリ広報 ほか
平成25年11月13日	1. 図書費の予算消化状況 2. 平成 26 年度予算案・業務計画案 ほか
平成25年11月20日	1. 授業協力依頼対応 2. 新都心・小平の資料費配分検討 ほか
平成25年11月27日	1. 平成 26 年度図書館開館日程案 2. 電子書籍予算 ほか
平成25年 12 月 4 日	1. 図書館委員会の進め方 2. 平成 26 年度予算案修正
平成25年12月11日	1. 平成 26 年度予算案・業務計画案 2. ホームページ改訂進捗状況 3. 学生からの要望への対応 4. 貴重書デジタルアーカイブサーバ入れ替え ほか
平成25年12月18日	1. 平成 26 年度予算案調整 2. リポジトリ広報 ほか
平成26年 1 月 22 日	1. オンラインデータベース講習会およびトライアル 2. 選書資料の見直し 3. 平成 26 年度業務計画・勤務体制 4. IFFTI 参加者見学への対応 ほか
平成26年 2 月 12 日	1. 平成 26 年度組織編成案 2. 平成 26 年度資料費の配分 3. 小平館の蔵書点検 ほか
平成26年 3 月 19 日	1. 平成 26 年度組織編成および各課業務分担 ほか

■検討組織名：文化学園服飾博物館

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成25年度)	1. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 2. 所蔵資料のデータベース化の推進と新システムの導入。 3. ホームページのリニューアル。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 文化学園創立 90 周年など、周年行事にふさわしい充実した展示の実施。 7. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加を図る。 8. 授業への利用、教員の研究資料等、収蔵資料の展示以外の活用を図る。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 資料収集については、不足していると思われる資料について、西洋の資料を 4 点、アジアその他の資料を 5 点など、合わせて 20 点の資料の収集を行い、収蔵品を補強することができた。 2. 資料のデータの新しいシステムへの移行を開始しデータ入力などを進めている。資料に関連するすべての関連データの入力などを進めていきたい。 3. ホームページのリニューアルを実施したことにより、告知の見え方が大きく改良されたが、内部職員による画面表記の変更の自由度など、新たな課題も発見できた。 4. 未撮影分の資料の写真撮影や、既存資料で不足している写真データの追加撮影、新収資料についての撮影などを実施し、データの充実を図った。 5. 所蔵資料の整理・保存に関して、収納スペースに制限があるため、再利用できないパネルなどを一部整理し、収蔵スペースの有効利用の範囲を広げることができた。 6. 文化学園創立 90 周年記念展示「明治・大正・昭和戦前期の宮廷服 一洋装と装束一」展においては、入場者数 (11,075 人)、入館料収入、図録の売り上げともすべてが順調に推移し、文化学園を強く外部的に印象づけることができた。 7. 入館者数については学内外ともに順調であった。 8. 周年行事の一環として行なわれた「装苑と装苑賞 その歩み」展においては、57 年にわたる洋服の変遷が見える展示であり、学生の見学が多く、授業とのかかわりにおいても一定の役割を果たすことができた。【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 2. 収蔵資料に関する研究を進め、その結果を展示に反映させ、展示の活性化を図る。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進と新システムの導入を継続して行う。 4. ホームページの更なる有効活用の研究。 5. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 6. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 7. 文化学園大学創立 50 周年記念展示など、その歴史にふさわしい充実した展示の実施。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加をはかる。 9. 授業への利用、教員の研究資料等、収蔵資料の展示以外の更なる活用を図る。【共】

■検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 4月12日 ～6月 8日	「ヨーロッパ・モード 2013」展 （学内は 4月 5日より開催） 会場：服飾博物館
平成25年 5月 1日 ～6月 16日	文化北竜館開設 50 周年記念展 会場：飯山市美術館「交流の歴史と鏡」展 主催：学校法人文化学園、長野県飯山市、飯山市教育委員会
平成25年 7月 3日 ～9月 28日	「装苑と装苑賞 その歩み」展 会場：服飾博物館
平成25年 9月 17日	博物館運営・専門委員会 平成 24 年度報告、平成 25 年度計画、意見交換
平成 25 年10月 23日 ～12月 21日	文化学園創立 90 周年記念展示 「明治・大正・昭和戦前期の宮廷服 一洋装と装束一」展 後援：文化庁 特別協力：明治神宮 協力：日本経済新聞社、産業経済新聞社、日本アパレル・ファッション産業協会 渋谷区観光協会 会場：服飾博物館
平成25年 10月 25日	MIHO ミュージアム「江戸の異国万華鏡—更紗・びいどろ・阿蘭陀」展（2014年 3月15日 ～6月 8日）に、更紗杜若文様縫合小袖と更紗縫合帯貸出決定。 ダメージ部分を修復後の展示、同時に本資料の分析・研究を東京文化財研究所などと共 同で進める。
平成25年 11月 26日	渋谷区観光協会 ミニツアー協力
平成25年 11月 27日	観光庁事業 ユニークベニュー実施 宮廷服展の展示解説と講演 第一部 明治・大正・昭和戦前期の宮廷服 スタディーツアー 第二部 基調講演「宮廷服の洋装化考」隠された日本近代化へのバールを解く 大沼 淳 学長 主催：学校法人文化学園 共催：観光庁 会場：服飾博物館
平成25年 12月 17日	文化学園創立 90 周年記念展示 「明治・大正・昭和戦前期の宮廷服 一洋装と装束一」展 常陸宮正仁親王妃華子殿下お成り 会場：服飾博物館
平成25年 12月 18日	明治大学教養講座 「ア・ミュージアム—『知の玄関への招待』—」第 8 回講座協力
平成 26 年 1月 27日 ～1月 31日	IFFTI 国際会議期間中特別展示（内部開催） 文化学園服飾博物館所蔵品から日本の特徴的衣装展示 会場：服飾博物館
平成 26 年 2月 7日 ～平成 27 年 5月 24日	「ヨーロッパ・モード 2014」展 会場：服飾博物館

■検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター

報告者：関間 正雄

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続 2. 産学交流の推進の継続 3. 外部情報公開と交流促進の継続 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 資料室データベースの 1 本化に向けての調整 6. データベースハード、ソフト整備に関わる補助・助成金の検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続 (1) テキスタイル資料室：織物産地を中心として素材収集、公開及びレファレンス。テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向け無料講習会開催（年 2 回）。 (2) 映像資料室：ワールドコレクション画像データベース用データの収集。教材用映像資料の収集、公開及びレファレンス。 (3) コスチューム資料室：学内作品、デザイナー作品の収集、公開及びレファレンス。 (4) 企画室：ファッションリソースセンターだより発刊（年 2 回）。学生企画展示（年 3 回）コスチュームギャラリーでの資料展示（年 2 回）。 2. 産学交流その他の実施 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ開催（年 4 回、計 159 人参加）。デザイナー作品等企画展（年 14 回、計 21,228 人見学）。コンテスト開催（年 2 回）。トークショー開催。 3. 外部への情報公開対応機関として「文化学園ファッションリソースクラブ」継続。クラブ有料化の下、一般利用者の会員制導入を図る。外部イベントへの資料提供及び展示協力。 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充は、映像資料室ではアーカイブコレクション情報を追加し、テキスタイル資料室では布地データ追加した。 5. 資料室データベースの 1 本化に向けての調整については、調整・検討中。 6. データベースハード、ソフト整備に関わる補助・助成金については、検討中。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続 2. 産学交流の推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 資料室データベースの 1 本化に向けてファッションリソースセンター運営委員会などを通して推進データベースハード、ソフト整備に関わる補助・助成金の獲得を検討 【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：柿島 由雄

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 各校の担当者や教員との意見交換の機会を設け、海外教育機関と本学との交流等教育支援活動へとつなげる。また、センターの活動や関連行事の周知に努める。 2. 第16回 IFFTI (国際ファッション工科大学連盟) 国際会議・年次総会の準備と運営に関して、実行委員会のサポートを行う。 3. 海外提携校との長期・短期の留学プログラムの内容を受け入れ・派遣ともに充実させる。 4. 海外留学や国際コンテストへの応募を支援し、関連のセミナー等を企画する。 5. 英語講座を開催するなど、学内のグローバル環境の充実を図る。 6. 文化学園スチューデント・アンバサダー (学生親善大使) を再募集し、活動の幅を広げる。 7. 留学生同士、あるいは留学生と日本人学生が交流できる行事を提供する。 8. 留学生獲得のため、韓国における広報活動を見直すほか、ブラジルやアセアン諸国の教育機関との共同人材育成プログラムを検討する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 各校担当者の意見交換の場である国際交流センター運営委員会を年 2 回開催し、各校の課題を確認した。また希望学生にはメールでイベント等の情報を配信し、学内での周知に努めた。 2. 1 月の第16回IFFTI会議では、海外との連絡窓口としてIFFTI本部や海外参加者との連絡、論文募集及び審査に関わる整理・連絡、ホームページやプログラムの制作、ツアーの企画・運営等、多岐にわたる業務から開催をサポートし、本学を海外にアピールする機会となった。 3. 新たな特別留学制度として、イギリスのAUCBとの「建築・インテリア+英語」の半年間留学プログラムについて関係者と交渉している。引き続き実現可能性を検討していく。 4. 特別留学制度の手続きのサポートや、シンガポールコンテストへの応募を支援し、NTU 教授によるセミナーも実施。意欲ある学生に海外への挑戦を意識させることができた。 5. 英語でプレゼンテーションする能力を身につける英語セミナーを 2 期 (各 6 回) にわたって開催し、参加者 13 人に貴重な経験と訓練の場を提供できた。 6. スチューデント・アンバサダーは新たに37人が決定。継続者13人と合わせて50人で活動した。海外からの研修生への街案内やIFFTI会議等で 6 回、積極的に活動に取り組めた。 7. 留学生と日本人学生が英語でコミュニケーションを図る「英語カフェ」を 9 回、日本語で交流を深める「にほんごカフェ」を10回開催し、多くの学生に交流の機会を提供した。毎年開催している「スポーツ交流会」は IFFTI 会議開催準備のため中止となった。 8. 韓国の現地法人を連絡事務所に戻し、優秀な留学生の獲得に向けて合理化することとなった。ブラジルの職業訓練機関との共同人材育成事業は、実現に向け関係者間で協議中である。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 各校との連携、関連活動の周知 (1) 各校関連部署の担当者や教員と意見交換の機会を設け、学校や学生のニーズを把握した上で各校と連携し、提携校などの海外教育機関との交流や教育支援活動につなげる。 (2) 活動の成果を上げるため、メール等を活用してセンターの活動や関連行事の周知に努める。 2. 国際交流によるグローバル化プログラムの開発・支援 (1) 海外提携校との長期・短期の留学プログラムの内容を、受入れ・派遣ともに充実を図る。 (2) 海外留学や国際コンテストへの応募を支援し、関連のセミナーやワークショップを企画する。 3. 留学生対応と交流による学内グローバル化推進 在学留学生の日本語能力をフォローするための新講座(専門用語、就職対策等)を企画する。 4. 優秀な留学生の獲得 繊維アパレル産業が活発に発展しつつある新興国に注目し、ブラジルの職業訓練機関やアセアン諸国の繊維関連団体との共同人材育成プログラム実現のための体制を整える。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 6 月 6 日	第 1 回国際交流センター運営委員会 1. 平成 24 年度の活動をふまえて 2. 平成 25 年度の活動予定 3. 文化学園スチューデント・アンバサダーの活動について 4. 意見交換
平成 26 年 3 月 7 日	第 2 回国際交流センター運営委員会 1. 平成 25 年度の活動報告 2. 平成 25 年度の振り返り 3. 平成 26 年度にむけての意見交換 (国際交流センターに期待すること)

■検討組織名：文化学園知財センター

報告者：原 敏夫

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 知的財産の権利化の推進 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。 2. 知的財産に関する啓発活動 (1) 教職員及び学生を対象に、知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。 3. 知的財産の更新及び保護管理 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。 4. 他大学との意見交換、情報交流を図る。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 知的財産の権利化の推進について (1) 文化・服装形態機能研究所の伊藤由美子教授が発明した「体型測定方法及び体型測定システム」の特許を取得した（特許第 5385932 号）。【共】 (2) 大学服装学部角田光雄名誉教授他5人が発明した「染色方法及びその装置」の特許を取得した（特許第5416353号）。【共】 2. 知的財産に関する情報の普及、啓発に関する活動について (1) 平成 25 年 12 月 11 日に第 7 回知財センター講演会「作品の知的財産権を守るために」（佐藤祐介特許事務所弁理士佐藤祐介氏）を開催し、学園各校の教職員や学生への啓発・普及活動を行った。【共】 (2) 知的財産に関する教育活動として、大学造形学部学生を対象に（生活造形学科、90 分 1 コマ）、「クリエイティブキャリア論 B」として知的財産の基礎に関する講義（社会人となる準備：デザインを保護する法律の世界）を行い、学生の評価も好評であった（平成 25 年 11 月 26 日）。【大】 (3) 知財に関する概説、実績報告をホームページに掲載し、知財センターの活動を学園内外に発信した。【共】 3. 知的財産の更新及び保護管理について 「衣服の製作方法」の特許権、「洋裁用製図定規」の意匠権、商標権「装苑」「すみれ幼稚園マーク」等の更新を行った。【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 知的財産の権利化の推進 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。 2. 知的財産に関する啓発活動 (1) 教職員及び学生を対象に、知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告をホームページに掲載する。 3. 知的財産の更新及び保護管理 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。 【共】

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 5 月 30 日	知財センター運営委員会 1. 平成 24 年度業務実績 (1) 特許出願 (2) 権利化活動実績 (3) 知財センター主催第 6 回講演会の開催 (4) ホームページ更新 2. 平成 24 年度自己点検 (1) 平成 24 年度の課題 (2) 取組の結果と点検・評価 (3) 平成 25 年度の課題 3. 平成 25 年度事業計画 (1) 知的財産の権利化 (2) 第 7 回知財センター講演会の開催 (3) ホームページの更新 (4) 知的財産の更新及び保護管理
平成25年 8 月 19 日	知財センター小委員会 1. 業務移管についての確認
平成25年 8 月 27 日	知財センター小委員会 1. 講演会開催時期と講演者の検討
平成25年11月 27 日	知財センター小委員会 1. 講演会の会場確認、講演会の準備内容の確認
平成25年 12 月 2 日	知財センター小委員会 1. 講演会の準備内容の確認
平成25年12月 10 日	知財センター小委員会 1. 講演会当日のスケジュール、講演内容の確認
平成25年12月 11 日	知財センター第 7 回講演会 「作品の知的財産権を守るために」 (佐藤祐介特許事務所 弁理士 佐藤祐介氏)
平成 26 年 2 月 6 日	知財センター運営委員会 1. ホームページの仕様変更について 2. 職務発明規程の学生への準用について 3. 知的財産権に係る申請の方針について

共同研究拠点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 「服飾文化共同利用・共同研究拠点」の認定の継続 2. 共同利用を中心とした研究事業の推進 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 「服飾文化共同利用・共同研究拠点」の認定の継続 平成 25 年 4 月 23 日付で、文部科学大臣から「共同利用・共同研究拠点の認定について（通知）」を受領し、平成 25 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日にかけて、服飾文化共同研究拠点としての継続認定を受けた。【大】 2. 共同利用を中心とした研究事業の推進 (1) (共同研究集会の推進) 外部の共同研究者のための作業スペース、打合せスペースを整備し、メディアヒストリー研究会、シルク研究会等を開催した。 (2) (文化祭の展示) 和装文化に関する作品の展示、和装伝統文化に関する材料・道具の展示、平成 20 年度から平成 24 年度にかけての共同研究の概要・成果の展示、平成 22 年度から平成 24 年度にかけての若手教員研究奨励金の概要・成果の展示等を行った。 (3) (運営委員会の開催) 平成 25 年 11 月 15 日に、外部の有識者を招聘して運営委員会を開催し、和装文化・伝統文化の継承や、企業との連携、研究者コミュニティの強化といった服飾文化共同研究拠点の中長期的な課題に関する助言を得た。 (4) (服飾文化関連の講演会) 平成 26 年 2 月 24 日に、国立新美術館主任研究員の本橋弥生氏を講師として迎え、服飾文化特別講演会「バレエ・リュスと舞台衣装」を開催した。 (5) (服飾文化の若手研究者の活動支援) 学内の若手教員育成のために、若手教員研究奨励金による支援事業を実施し、文化学園大学（4 件）、文化服装学院（1 件）の若手教員の研究課題を採択した。また、平成 25 年 12 月 11 日に、平成 24 年度採択の若手教員による研究成果発表会を開催した。 (6) (共同研究事業のまとめ) 平成 24 年度終了課題である共同研究 15 件に関して、各共同研究グループの独自の最終報告書を作成し、それらを CD にまとめた。 (7) (外国人共同研究員受入れ) 外国人共同研究者を受け入れやすくするために、英語の文化ファッション研究機構申請書・同意書等を作成した。また、2 名の外国人（オランダ 1 人、イギリス 1 人）から文化ファッション研究機構共同研究員就任の申請があり、内 1 人（イギリス人）を文化ファッション研究機構共同研究員として受入れた。 【大】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進 【大】

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 8 日	第 1 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 文化ファッション研究機構の新体制について
平成25年 4 月 23 日	第 2 回文化ファッション研究機構小委員会 1. F 館 4 階のレイアウトについて 2. 和装文化研究所について
平成25年 5 月 22 日	第 3 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 服飾文化共同研究拠点の認定について 2. F 館 4 階のレイアウトについて 3. 運営委員会、研究企画委員会について 4. 共同研究員の共同利用期間延長について
平成 25 年 6 月 5 日	第 4 回文化ファッション研究機構小委員会 1. IFFTI 論文発表について 2. 新旧運営委員会メンバーについて 3. F 館 4 階のレイアウトについて
平成25年 6 月 19 日	第 5 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 新井明子先生制作のテキスタイルについて 2. 文化祭の展示について
平成25年 7 月 16 日	第 6 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 共同利用・共同研究拠点 平成 24 年度実施状況報告書提出について 2. Windows アップグレードについて
平成25年 7 月 30 日	第 7 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 新規共同研究員（外国人）の受入れについて 2. 文化祭の展示について 3. 若手教員研究奨励金について 4. F 館 4 階のレイアウトについて
平成25年 9 月 19 日	第 8 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 若手教員研究奨励金について 2. 文化祭の展示について 3. 英語の文化ファッション研究機構共同研究員申請書等について
平成25年10月 23 日	第 1 回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1. 若手教員研究奨励金の採択について
平成25年11月 15 日	第 1 回文化ファッション研究機構運営委員会 1. 経過報告について 2. 今後の方針（中長期）について 3. 今年度の活動について
平成25年11月 20 日	平成 25 年度採択若手教員研究奨励金説明会 1. 研究の進め方について 2. 会計等事務手続について
平成25年 12 月 4 日	第 9 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 平成 24 年度採択若手教員研究奨励金成果発表会について 2. 服飾文化特別講演会について 3. 平成 26 年度予算について
平成26年 1 月 17 日	第 10 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 服飾文化特別講演会について

附 属 研 究 所

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

報告者：田村 照子

提出日：平成 26 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 研究所設備・機器のさらなる充実を目指して、公的資金を中心とする支援事業への応募申請を行う予定である。 2. 引き続き外部からの委託・共同研究依頼申請に対応できるような体制を整え、研究成果を外部に向けて発信する。 3. 平成25年度は研究所の運営委員会を組織し、その定期的かつ活発な活動を通じて、研究所が学園全体の研究拠点となり、所員の研究レベルの向上に資するよう、方策を試行する。 4. 外部審査員制度の実施については、学園全体の取り組みとすべく、その方法・組織等について提案し実施を推進する。 5. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理については、引き続き専任職員の配置を要請し実行を図る。 【共】
取組の結果と点検・評価	1. 平成 25 年度も更なる設備を充実・整備し、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室が有効に活用される基盤が形成された。 2. 産学共同研究としては、花王株式会社、カネボウ化粧品株式会社、京都電子工業株式会社、マルコ株式会社、旭化成株式会社、株式会社千趣会等との共同研究を実施した。また、国内外からユニクロ、イオン生活科学研究所、サウジアラビア、IFFTI 会員等、多くの参観・見学者を受け入れ、研究所の活動がテレビ、新聞・雑誌等のメディアで多数取り上げられた。 3. 研究所員は個々の研究推進に追われ、個人レベルの向上は図られたものの、運営委員会等による十分組織的な活動を展開するには至らなかった。 4. 外部審査員制度は残念ながら実現できなかった。 5. 設備の運用・管理、研究所の事務管理に関する専任職員の配置が検討されたが、なお継続審議となった。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 研究に対する時代の要請の応じた研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 2. タイムリーな講演会、講習会等を企画し、学内の研究の活性化を図る。 3. 国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 4. 産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 5. 大学院学生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。 6. 平成 24 年度に達成されなかった、所報の審査員制度、研究所の外部評価制度、研究所専任の職員の配置について積極的に審議し、実現に向けた取り組みを行う。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 1 日	自己点原稿提出、研究所小委員会開催
平成25年 4 月 10 日	京都電子と「発汗サーマルマネキンのラウンドロビンテスト」に関する打合せ インテグレート株式会社より「クールビズ対策」に関する取材
平成25年 4 月 24 日	旭化成株式会社より「共同研究」に関する打合せ、及び展示会の案内、次年度ファッションショーの素材提供に関する申し出あり。
平成 25 年 5 月 8 日	朝日新聞社より「夏の男の通勤着」に関する取材
平成25年 5 月 22 日	蚕糸科学研究所よりシルクの研究に関する相談
平成 25 年 6 月 7 日	㈱カネボウ化粧品「敏感肌評価方法に関する共同研究」打ち合わせ
平成25年 6 月 20 日	花王株式会社より「共同研究」に関する打ち合わせ
平成25年 7 月 23 日	ユニクロより「シルクとカシミア」の特性に関する問い合わせ・解説相談
平成25年 9 月 10 日	京都電子工業株式会社と「サーマルマネキンラウンドロビンテスト 実験方法に関する打合せ
平成25年 9 月 26 日	㈱カネボウ化粧品共同研究実験
平成25年 10 月 4 日	京都電子工業株式会社「マネキン」実験
平成25年 10 月 7 日	ミズノ株式会社、見学
平成25年10月 18 日	少年新聞「衣服気候」に関する実験
平成25年11月 15 日	旭化成株式会社 共同研究打ち合わせ
平成25年11月 20 日	京都電子工業株式会社「サーマルマネキン」実験打ち合わせ、蚕糸科学研究所打合せ
平成25年11月 26 日	ボーケン吉岡氏スキンモデル見学と質疑
平成25年 12 月 6 日	京都電子工業株式会社「マネキン」実験打ち合わせ、「雪の女王」案内
平成26年 1 月 23 日	韓国より教員、研究所見学
平成26年 1 月 29 日	IFFTI 会員に対する研究所説明・案内
30 日	同上
平成 26 年 2 月 5 日	大塚製靴研究所見学と共同研究打診

■検討組織名：文化・住環境学研究所

報告者：渡邊 秀俊

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 共同研究の推進 2. 若手教員の研究・制作活動の支援 3. 研究所報「しつらい Vol. 6」の発行・配布 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 共同研究の推進 平成 25 年度の共同研究は、これまでの「共同研究」と「教材開発」という募集カテゴリーを一本化し、参画教員の拡大と若手教員による共同研究の活性化を目的として、下記の 3 つのカテゴリーに分けて研究テーマを公募した。 ＜共同研究（教材開発を含む）＞：学内外の複数人で行う共同研究（教材の購入のみではなく、教育方法や教育効果の検証などが必要）。 ＜共同制作（教材開発を含む）＞：学内外の複数人行う共同制作（作品の制作のみではなく、制作プロセスや教育効果の検証などが必要）。 ＜若手による研究・制作＞：40 歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作。その結果、採択された以下の 8 件の研究を実施された（②と③は統合して実施）。 ① 高齢期女性の居場所におけるモノと収納に関する研究 ② 注視行動からみた「技」に関する環境行動研究 ③ 動作解析によるデザインスキルの定量的評価 ④ 長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究 ⑤ 打ち出し金具の表現方法及び技法を活かした課題の可能性 ⑥ 日本のキャラクターの情動表現研究とその応用 ⑦ 地域と連携した環境デザイン教育についての研究 ⑧ 地域に根ざすデザイン・芸術のあり方に関する実践的研究 2 特に①～③は、当該研究所を母体として実施した「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 22～24 年度）により整備した研究施設（住環境デザインモデルルーム：D-18）と研究設備を使用して継続的研究として実施された。上記の研究成果は、平成 26 年度に学内研究発表会や所報「しつらい」での公表のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。共同研究の推進という点では当初の目標を達成できたが、申請時の研究計画が実施段階において若干変更されるケースがある点については課題を残した。年度末の研究報告書の義務付け等の研究実施要領の整備が必要であると考え。 2. 若手教員の研究・制作活動の支援 平成 25 年度に実施された上記研究テーマのうち、①⑤⑥⑧については若手教員が参画して行われた共同研究であり、当初の目標を一定程度達成することができたと考え。制作活動については、共同研究の範疇に含まれるかが審議の焦点になり課題を残した。共同研究の範疇を明確化するガイドライン等の策定が必要であると考え。 3. 研究所報「しつらい Vol. 6」の発行・配布 研究所報「しつらい」Vol. 5 を「歴史と環境」という特集テーマのもとに発行・印刷した。学内だけでなく学外関係機関へも配布した。また、「研究ノート」の内容は文化学園大学のリポジトリーとしても公表したという点で、当初の目標は達成できたと考え。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらい Vol. 6」の編集 【大】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年11月 20 日	1. 平成 25 年度の予算執行状況について（経過報告） 2. 平成 26 年度の事業計画について（共同研究の推進、研究所報の編集） 3. 平成 26 年度の共同研究申請について（応募テーマの採否審議） 4. 住環境デザインモデルルーム（D-18）の活用について（幅広い用途での利用）
平成26年 3 月 19 日	1. 平成 25 年度の事業報告（成果報告） 2. 平成 26 年度の事業計画（共同研究の推進、参画教員の拡大、若手教員の研究支援） 3. 研究戦略検討会議について（経過報告） 4. その他（運営委員の見直し検討、「しつらい」の編集方針、共同研究の実施要領）

事 務 局

■検討組織名：研究協力室

報告者：中山 明彦

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	平成 25 年 8 月 1 日付新設
取組の結果と 点検・評価	1. 科研費等による研究振興 科学研究費助成事業の公募に関する周知、説明会の開催、研究計画調書の精査等を行い、19 件の科研費を日本学術振興会へ提出した。また、各省庁、財団等の研究助成金の公募に関する周知を行い、学術研究振興資金及び若手研究者奨励金の研究計画調書を日本私立学校振興・共済事業団へ提出した。 2. 研究戦略検討会における検討 平成 25 年 7 月 8 日付文化学園大学研究戦略検討会中間まとめ「大学の研究をいかに活性化するか?」を基に、項目を整理した。それらの項目整理を基に 3 つのワーキンググループを構成し（研究時間・資金の確保…WG1、研究文化醸成・戦略的研究分野…WG2、研究へのインセンティブ・研究のアウトプット…WG3）、各項目の実現可能性について検討を行った。 3. 企業等との共同研究契約 研究テーマ「発汗マネキンを用いた衣服の蒸発抵抗計測技術についての研究」（田村照子教授）に関して、京都電子工業㈱と共同研究契約書を締結した。 4. 学内研究の補助 第 47 回学内研究発表会（服装学部及び造形学部、平成 25 年 9 月 20 日開催）、第 29 回教員研究作品展の補助業務を行った。 5. シンポジウム等の周知 様々な研究領域に関する講演会、研究会、シンポジウムに関する周知を行った。 【共】
次年度への 課 題 (平成 26 年度)	1. 科研費等による研究振興 科学研究費補助金の申請件数及び採択件数を増やすことにより、研究活動を振興する。また、各省庁、財団等の研究助成金公募に注力し、外部資金導入による研究活動を振興する。 2. 研究戦略検討会を踏まえた研究振興 研究戦略検討会で検討された項目のうち、平成26年度内に実現可能なものから実施に移し、研究活動を振興する。 3. 学内研究の補助業務 学内研究発表会、教員研究作品等の研究活動をサポートする。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年11月 26 日	第 14 回 研究戦略検討会 1. 事務局でまとめた「中間まとめ提案事項の対応可能性について」
平成25年12月 17 日	第 15 回 研究戦略検討会 1. 検討課題の整理
平成26年 1 月 24 日	第 16 回 研究戦略検討会 1. WG1（研究時間・資金の確保） 2. WG2（研究文化醸成・戦略的研究分野） 3. WG3（研究へのインセンティブ・研究のアウトプット）
平成 26 年 2 月 5 日	第 17 回 研究戦略検討会 1. WG1（研究時間・資金の確保） 2. WG2（研究文化醸成・戦略的研究分野） 3. WG3（研究へのインセンティブ・研究のアウトプット）
平成26年 3 月 20 日	第 18 回 研究戦略検討会 1. WG1（研究時間・資金の確保） 2. WG2（研究文化醸成・戦略的研究分野） 3. WG3（研究へのインセンティブ・研究のアウトプット）

■検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：遠藤 啓

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 本学における学生募集の重要性に関する認識を共有し、優れた学生の募集に努める。 2. 各課と教員が持つ情報を共有して、引き続き、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 3. 奨学金のための寄付金の募集に努めるなど、学生の支援体制の充実を図る。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成26年度学生募集は、厳しい結果であったため、平成27年度に向けて外部専門家のサポートを受けるべく、検討する。 2. 全学FD・SD研修会等を通じて、情報の共有をはかった。また、大学から短大への転学は、従来より緩やかに受け入れることとした（受け入れ時期の緩和等）。 3. 平成25年度の寄付金は109件740,000円であった。また寄付金を原資とした「文化学園大学海外提携校への留学奨励金規程」を整備し、平成26年度から本学海外提携校へ留学する学生に奨励金を給付することとした。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	1. 学生募集に関する専門的知識の獲得・蓄積とその共有化を図る。 2. 引き続き、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 3. 教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 4 月 2 日	全学 FD・SD 研修会の実施 午前中は全教職員を対象として、各学部の方針の確認を行った。 午後の分科会は、教員・事務職員混成グループとし、双方の情報の共有をはかった。グループは検討内容に継続性を持たせるために、平成 24 年度秋の分科会と同様とした。
平成25年 9 月 19 日	全学 FD・SD 研修会 秋の分科会の実施 4 月の分科会に引き続き教員・事務職員の混成グループにより、特に課題となっている事項を中心に討議した。なお、グループは無作為なくじ引きとし、新たな編成とした（無作為ではあっても、各学部・事務局各部署が必ず一つのグループに入るような工夫は施した）。
平成26年 3 月 27 日	事務局 SD 研修会の実施 平成 25 年度に実施された学外団体主催研修会等に参加した職員は、予め事務局長あてに「学外団体主催研修会参加報告書」を提出した。 事務局 SD 研修会は、事務局長や管理職も含めて所属部署混合の 7 グループに分かれて、学生の授業等への取り組み状況、本学における教育・研究の現状の把握、休学・退学への対策、業務の効率化について討議・検討し、討議内容を発表した。

学 園 本 部

■検討組織名：学園総務本部

報告者：佐藤 申

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 平成24年度では総合的な赴任マニュアルの作成ができなかったので、平成25年度で赴任時の個別業務の資料をまとめ「文化学園海外赴任マニュアル」を作成する。また、中国での鳥インフルエンザの発生や政治的な不安定などを鑑み、赴任者の危機管理体制について再検討を行う。※ 学校法人文化学園海外赴任マニュアルの作成 【共】
取組の結果と点検・評価	1. 海外赴任マニュアルについては、冊子としての作成はできなかったが、海外赴任に関する業務を項目別に洗い出し、個々の対応について担当課の業務と赴任者自らが行う業務を一覧表としてまとめた。この表には業務の内容、時期、担当部署、個別の注意点などが記載されており、現在は中国（大連）魯迅美術学院の一枚のみの赴任ということもあり、赴任業務は問題なく行われている。 また、実際の赴任に際して発生した問題点などを整理し、この一覧表に反映させている。 2. 危機管理について中国（大連）魯迅美術学院では、赴任者は原則キャンパス内に居住しており、キャンパス内で生活している分には安全は確保されている。現在、一昨年に心配された暴動や鳥インフルエンザのリスクはないが、新たに大気汚染（PM2.5）の問題が起こっている。大気汚染対策として赴任者への高機能なマスクを送付した。（中国には良質のものが売っていない）また、赴任者の居住する各部屋に空気清浄機を設置した。今後も現地担当者や産学推進機構と連携しながら情報収集を行い、赴任者が安心して仕事ができるようにサポートしていく。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 防災計画の見直し 2. 防災備蓄の再検討 3. 消防訓練時に地震災害に備えた訓練等を合わせて行う。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 4 月 23 日	中国大連にて海外赴任についての説明会 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、赴任教員
平成25年 5 月 31 日	中国大連にて海外赴任についての報告会 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、赴任教員
平成25年 7 月 11 日	中国大連にて海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務
平成 25 年 8 月 8 日	中国大連にて海外赴任についての報告会 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、赴任教員
平成25年 10 月 2 日	中国大連にて海外赴任についての報告会 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、赴任教員
平成26年 1 月 14 日	中国大連にて海外赴任についての報告会 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、赴任教員

■ 検討組織名：学園管理本部施設部

報告者：友利 光夫

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	- 平成 24 年度の耐震診断に基づいた耐震補強工事及び関連整備工事を行う。 - ふじ学生会館のクラブ活動を主とした利用計画に基づいた改修工事を引き続き行い、学生生活の安全確保と生活環境の確保を充実する。 - 各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 - 新都心キャンパスおよび小平キャンパスの緊急警報装置システムの計画を構築する。 - 国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 - 文化・ファッションテキスタイル研究所を整備し、教育環境を確保する。 - 研修施設に接する道路拡幅工事（行政事業）と関連する整備計画を立案して予算化する。 - 省エネルギー活動を計画的に推進する。 - 産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙・什器備品等）の再資源化を継続的に推進する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	- H 館の耐震補強計画に基づいた耐震補強工事と関連整備工事を完了し、建物利用計画の策定を始めた。 (1) ふじ学生会館の耐震工事とクラブ室及び各諸室の利用に合わせたリニューアル工事を完了し、名称を紫苑学生会館と命名した。 (2) 紫苑学生会館のクラブ室・諸室に加え Bun Café を同時にオープンさせて、創造性を豊かにし、クラブ活動の活性化を高める憩いの場としての生活環境を充実させた。 (1) A 館講義室及び実習室の天井及び設備プレートを清掃し環境整備を行った。 (2) L 館屋上防水工事を行い建物の耐久性を高めた。 (1) 事業計画に基づいた小平キャンパスの緊急警報装置を導入し、学生の安全を確保した。 (2) 新都心キャンパスの緊急警報監視ポイントを追加し、安全性を高めた。 - 学生会館全体のパンフレットを作成し、統一管理標準を定め、入寮募集活動を強化した。 - 文化・ファッションテキスタイル研究所の開設に伴い、管理体制を整えた。 - 長野県道路拡幅事業計画変更に合わせて、平成27年度の予算化に変更する。 (1) 新都心キャンパス照明について、計画的に LED 照明器具の更新を実施し節電を図った。 (2) 平成 24 年と同様に夏季一斉休暇を 3 日から 5 日にして、電力ピークカットとエネルギー消費量を削減した。 (3) 講義室、実習室の利用に合わせた温度制御方法の改善を行った。 - 職員および学生に対し、ごみの分別推進を呼びかけ、再資源化、再利用化運動に努めた。 【共】
次年度への 課題 (平成 26 年度)	- 平成25年度に引き続き、各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 - 新都心キャンパスおよび小平キャンパスの緊急警報装置システムをデジタル化し、学生生活の安全を強化する。 - キャンパスの外壁調査結果に基づき計画的に補修を行い、学生生活の安全を確保する。 - 国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 - 老朽化した熱源設備機器の長寿命化 5 年計画を立案し、教育環境の安定確保を充実する。 - 研修施設に接する道路拡幅工事（行政事業）と関連する整備計画を立案して予算化する。 - 引き続き省エネルギー活動を計画的に推進する。 - 産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙・什器備品等）の再資源化を継続的に推進する。 【共】

■検討組織名：学園経理本部

報告者：小池 雅己

提出日：平成 26 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 25 年度)	1. 学園創立 100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。 2. 財務部財務課を中心に外部資金導入の体制作りを進める。 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学園創立 100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。 学園創立 100 周年事業建設引当資産を 5 億円積み立てた。 2. 財務部財務課を中心に外部資金導入の体制作りを進める。 平成 25 年 4 月に租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の二第一項第二号に規定される要件を満たしている学校法人として認定されたことにより、本学園への寄附者は税額控除が受けられることになった。 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等について検討を重ねている。 【共】
次年度への課題 (平成 26 年度)	1. 学園創立 100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。 2. 新会計システムの導入及び学校法人会計基準改正への対応 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。 【共】

■検討組織名：IT委員会（情報システム室）

報告者：淵上 和子

提出日：平成26年3月31日

本年度の課題 (平成25年度)	1. ネットワーク機器の入替え 老朽化したネットワーク機器の入替えと同時に、無線LANのアクセスポイントの増設を計画する。 2. 事務システムのオープン化を検討 汎用機で行っている事務システムのオープン化を検討する。 3. 遠隔授業支援機器の入替え 遠隔授業によるTV会議システムの老朽化による入替えを検討する。 4. パソコン教室の構築 平成25年度パソコン教室入替えの計画を検討する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. ネットワーク機器の入替え ネットワーク機器を入替え、同時に無線LANのアクセス状況を調査し、新都心図書館1基増設と小平図書館1基新設し、学生サービスに努めた。 2. 事務システムのオープン化を検討 汎用機で行っている事務システムのオープン化を検討。製品の決定、移行作業のスケジュール調整が始まった。 3. 遠隔授業支援機器の入替え ネットワーク機器が新しくなった事で、通信が安定したのでTV会議システムは機器ともに現行のままで継続使用可能と判断をした。 4. パソコン教室の構築 A111教室とA113教室のパソコン教室入替えを行い、Windows7の環境になった。 【共】
次年度への課題 (平成26年度)	1. 大学事務システムのオープン化を開始する。 システムの優先順位を考えながら進めていく。 2. スマートフォンやタブレット端末を利用した学生サービスの検討を始める。 授業への利用方法等の検討。 3. パソコン教室の構築 平成26年度パソコン教室入れ替えの計画を検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成25年 6月04日 平成25年 6月27日 平成25年 7月02日 平成25年10月15日 平成26年 3月12日 平成26年 3月28日	学納金システム「Campus Plan」検討・導入打合せ
平成25年 7月 2日 平成25年11月 8日 平成25年11月20日 平成25年11月27日 平成26年 3月19日 平成26年 3月12日	入試システム「Campus Plan」検討・導入打合せ
平成25年 6月10日 平成25年 7月19日 平成25年 9月20日	学籍・教務システム調査 打合せ
平成25年 6月25日 平成25年 6月26日 平成25年 7月 2日 平成25年 7月 3日	Gmail 説明会
平成25年 9月24日 平成26年 2月 3日	大学IT小委員会
平成26年 3月10日	タブレット端末導入打ち合わせ

附： 委員会委員一覧表
入学定員・収容定員・在籍学生数
学部・学科・コース編成
全学自己点検・評価委員会委員一覧

平成 25 年度 文化学園大学委員会委員一覧表

平成 25 年 7 月 1 日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学生支援	研 究	入試対策	就 職
1	服装造形学 服装デザイン学 服飾工芸	田端 智香	小橋 宏美	◎塚本 和子	○高橋 良子	永富 彰子
2	短大部服装学科	鹿島 和枝	佐藤 綾	井口 彰子	△井上 昌恵	根本賀奈子
3	テキスタイル 機能デザイン学 生産工学、ファッション画	◎小柴 朋子	柚本 玲	八浪 美穂	角田 薫	斎藤 嘉代
4	服装社会学 服装史学	△田中 里尚	松平寿美枝	△大石さおり	福田 博美	◎松田 祐之
5	染織、金工 グラフィック・プロダクト 造形文化、絵画 基礎デザイン、色彩学	七里 真代	○佐藤百合子	加茂 幸子	北岡 竜行	庄司喜久美
6	建築デザイン 住居デザイン インテリアデザイン 短大部生活造形	渡邊 裕子	小田 敬子	岩塚 一恵	◎高橋 正樹	○丸茂みゆき
7	外国語・総合教養、日本語 情報科学、教育学・体育学、 調理学、博物館学	境 希里子	△森谷 直樹	勝山 祐子	富田 靖子	水原 寿里
8	国際文化 A、国際文化 B	○石田名都子	○久保田 文	○星 圭子	城 由紀子	三島 万里
9	国際ファッション 応用健康心理学	△安永 明智	柴田 早苗	杉田秀二郎	豊田かおり	古御堂 誠子
10	教務部 学生部 就職相談室	山口 嘉史 二茅みゆき	相川 孝 宮本 朱		相川 孝	△吉田 和代
学 長 指 名			◎スワット チャロンニボ ソリーニッチ	相川 孝 円谷 葉子		松本美保子 河本 和郎

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学F D	研究倫理	研究公正	研究費不正使用防止	ハラスメント防止
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 ○伊藤由美子 △押山 元子 △梶田 貴子 永野 順子 渡部 旬子 藤江 大輔 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 遠藤 啓 相川 孝 円谷 葉子 山口 嘉史	◎星野 茂樹 ○スワット チャロンニボ ソリーニッチ △白井菜穂子 金川 孝義 長山 洋子 渡部 旬子 安永 明智 安居 典子 北岡 竜行 相川 孝 円谷 葉子 吉田 和代	◎濱田 勝宏 ○田村 照子 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 荒牧 琢己 野口 京子 米山 雄二 渡邊 秀俊 永井 伸夫 佐藤真理子 遠藤 啓 △円谷 葉子	◎濱田 勝宏 遠藤 啓 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 田村 照子 野口 京子 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 円谷 葉子 原島 陽一	◎濱田 勝宏 ○野口 京子 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 田村 照子 渡邊 秀俊 遠藤 啓 原 敏夫 小林 哲夫 小池 雅己 友利 光夫 △円谷 葉子	◎永野 順子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 鹿島 和枝 相川 孝 円谷 葉子 吉田 和代 相談員 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 宮本 朱 岡部佐代子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程	紀要編集
◎大熊志津江 ○小柴 朋子 △由利 素子 香川 幸子 永井 伸夫 矢中 睦美 平良木啓子 大口 寛子 鄭 永娥 小林 未佳	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △久木 章江 渡邊 秀俊 横山 稔	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △矢澤 郁美 高橋 哲夫 石田名都子 C. ヒュー・ソール 山口 嘉史	◎齊藤真理子 ○加藤 薫 △星 圭子 白井菜穂子	＜服装学・造形学研究＞ ◎糸林 誉史 ○高村 是州 △曾根 里子 根本 賀奈子 カボラリ 薫 佐藤真理子 藤井 玲子 ＜人文・社会科学研究＞ ◎中沢 志保 ○C.ヒュー・ソール △杉田秀二郎 瀬島健二郎

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎福井 路可 ○森谷 直樹 △藤井 玲子 永野 順子 カボラリ 薫 川村めぐみ 五十嵐清子	◎佐藤 正明 △田中 直人 福田 博美 福井 路可 植木 淑子 岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	留学制度検討	I T委員会大学小
大関 徹 長沢 幸子 福田 博美 丸茂みゆき 小山 真理 青山めぐみ	◎濱田 勝宏 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 石田名都子 三國 純子 古屋 則子 本多 吉彦 遠藤 啓 相川 孝 柿島 由雄 円谷 葉子 山口 嘉史 △二茅みゆき	◎スワット チャロン・ソリニッチ ○渡邊 秀俊 濱田 勝宏 柳田 佳子 熊谷 伸子 野沢さおり 北浦 肇 村上 剛規 円谷 葉子 山口 嘉史 山川あづさ

入学定員・収容定員・在籍学生数（平成25年5月1日現在）

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学（博士後期）	2	6	11
	被服学（博士前期）	20	40	27
	生活環境学（修士）	6	12	12
国際文化	国際文化（修士）	6	12	4

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	服 装 造 形	360	1480	1304
	服 装 社 会	140	580	686
造 形	生 活 造 形	140	580	425
	建 築 ・ インテリア	120	520	341
現代文化	国際文化・観光※1	30	60	33
	国 際 文 化 ※1	30	90	33
	国際ファッション文化	100	430	413
	応 用 健 康 心 理	30	140	49

※1 国際文化学科は、平成24年4月より国際文化・観光学科に名称変更

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
服 装	—	120	240	185
生 活 造 形	—	40	40	20
専 攻 科	被 服	20	20	9

学部・学科・コース編成 (平成 25 年度)

文化学園大学大学院

生活環境学研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会学専修 ファッションビジネス専修 ファッション文化専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 国際ファッション文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニックコース インダストリアルテクニックコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化コース	ファッション文化専攻 服飾史専攻
造形学部	生活造形学科	グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース	
	建築・インテリア学科	建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアファブリックコース	
現代文化学部	国際文化・観光学科	2 年次 国際観光コース 国際文化コース	
	国際文化学科	3・4 年次 国際観光コース 国際文化コース	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース	
	応用健康心理学科		

文化学園大学短期大学部

服装学科	1 年次 ファッションビジネスコース ファッションクリエイティブコース ファッションプロモーションコース 2 年次 ファッションクリエイティブコース ファッションビジネスコース
生活造形学科	
専攻科	被服専攻

全学自己点検・評価委員会 委員名簿

委 員 長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島 健二郎
副委員長	伊藤 由美子
書 記	押山 元子
書 記	梶田 貴子
	永野 順子
	渡部 旬子
	藤江 大輔（平成 25 年 5 月から）
	磯崎 明美
	沼尻 七子
	北浦 肇
	杉田 秀二郎
	遠藤 啓
	福田 善視（平成 25 年 6 月まで）
	相川 孝
	円谷 葉子
	山口 嘉史
	二茅 みゆき
	高野 博子
	藤澤 千晶

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -平成25年度-

平成 26 年 7 月 1 日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会

発行：文化学園大学 文化学園大学短期大学部